

新潟県立歴史博物館年報

第 23 号

— 令和4年度 —



新潟県立歴史博物館年報

第23号

—令和4年度—

目次

I	管理運営の状況	1
	1 沿革—開館までの経緯—	
	2 施設の状況等	
	3 運営方針	
	4 組織図	
	5 事務分掌	
	6 予算	
	7 平成4年度観覧者の状況	
	8 ボランティア	
	9 情報管理システム	
	10 ホームページ	
	11 メールニュース・SNS	
	12 評価委員会	
	13 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応	
II	事業概要	21
	1 学芸事業概要	
	(1) 常設展示	
	(2) 企画展示	
	(3) 収集保管事業	
	(4) 調査研究事業	
	(5) 被災文化財の救済活動	
	(6) 新潟県地域史研究ネットワーク	
	2 交流普及事業概要	
	(1) 講座	
	(2) 体験プログラム	
	(3) 視察・団体受け入れ状況	
	(4) 出前授業	
	(5) 職場体験	
	(6) 高校生アカデミック・インターンシップ研修	
	3 イベント	
	4 博物館実習	
III	関係団体	66
	1 新潟県博物館協議会	
	2 新潟県立歴史博物館友の会	
IV	日誌抄	68
V	条例等	70
	1 新潟県立歴史博物館条例	
	2 新潟県立歴史博物館規則	

I 管理運営の状況

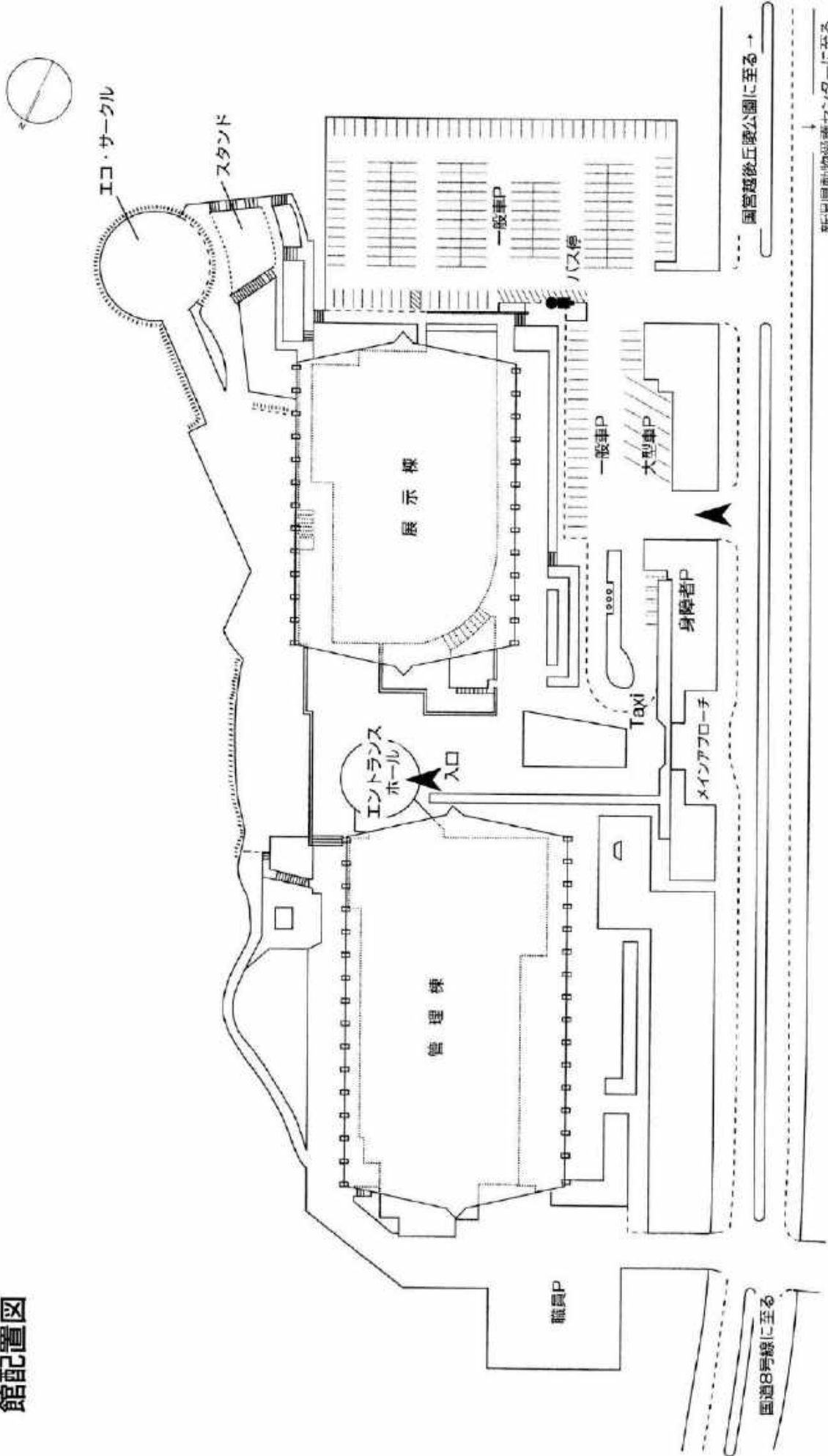
1 沿革－開館までの経緯－

- 昭和 60 年度 12 月 10 日 中越地区に社会文化施設を建設することを表明
- 昭和 62 年度 11 月 25 日 中越社会文化施設を長岡市に設置する基本方針を決定
- 昭和 63 年度 ・基本構想策定のための検討懇談会を設置
- 平成 3 年度 ・県の長期構想に掲げる「県立歴史民俗博物館」と「中越社会文化施設（縄文文化館）」の構想を一体の施設として整備する、とした基本構想を策定
- 平成 4 年度 ・基本計画検討委員会（委員 18 名）を設置
6 月 7 日 「新潟県歴史民俗文化館」（仮称）の建設基本構想を策定
- 平成 5 年度 ・展示収集委員会（委員 10 名）を設置
4 月 1 日 企画調整部企画課内に社会文化施設建設班を設置
2 月 7 日 建設地を長岡市関原町 1 丁目地内に決定
3 月 25 日 建設基本計画を策定
- 平成 6 年度 ・資料調査員（12 名）を設置
・有識者懇談会（5 名）を設置
11 月 1 日 展示基本設計契約
3 月 24 日 展示基本設計完了
3 月 31 日 建設用地の先行取得
- 平成 7 年度 4 月 20 日 建築基本設計契約
11 月 30 日 建築基本設計完了
1 月 18 日 展示実施設計委託
- 平成 8 年度 10 月 9 日 建築実施設計委託
1 月 31 日 展示実施設計完了
3 月 31 日 建築実施設計完了
- 平成 9 年度 4 月 1 日 企画調整部企画課内に社会文化施設建設室を設置
10 月 9 日 建築本体工事発注、展示制作発注
10 月 28 日 建築工事起工
- 平成 10 年度 4 月 21・23 日 県立歴史民俗文化館（仮称）の所管及び管理運営等について県三役（知事・副知事・出納長）説明
- 平成 11 年度 6 月 7 日 館の正式名称を「新潟県立歴史博物館」に決定
10 月 15 日 建築工事竣工
10 月 29 日 「博物館だより」創刊号発行
3 月 24 日 新潟県立歴史博物館条例議決
3 月 31 日 「博物館だより」第 2 号・『新潟県立歴史博物館研究紀要』創刊号発行
- 平成 12 年度 4 月 1 日 館の所管を企画調整部から環境生活部に移管
5 月 30 日 展示制作完了
7 月 20 日 「博物館だより」第 3 号発行
7 月 25 日 展示資料据え付け完了
7 月 28 日 竣工式。報道機関に公開
7 月 29・30 日 県民に対する内覧会（応募者約 2,000 名）
7 月 29 日 開館記念協賛事業として野外スペシャルコンサート「土取利行縄文鼓の世界」開催（新潟県立歴史博物館野外エコ・サークル特設ステージにて）
8 月 1 日 開館

2 施設の状況等

- | | | | |
|-----------|---------|---|-------|
| (1) 施設概要 | 場 所 | 長岡市関原町1丁目字権現堂 2247 番 2 | |
| | 敷地面積 | 50,009.36 m ² | |
| | 建築面積 | 12,101.62 m ² | |
| | 延床面積 | 10,841.37 m ² | |
| | 構造・階数 | 鉄筋コンクリート造 地上1階 地下1階 | |
| | 駐 車 場 | 外来（一般） | 184 台 |
| | | 大型バス | 5 台 |
| | | 身体障害者 | 4 台 |
| 職員 | | 48 台 | |
| (2) 設 計 者 | 基本設計 | (株)日本設計 | |
| | 実施設計 | (株)日本設計・新潟県建築設計協同組合特定企業共同体 | |
| | 展示設計 | (株)ムラヤマ | |
| (3) 請負者 | 建 築 | 植木・大石・小杉特定協同企業体 | |
| | 電 気 | 近藤電気(株) | |
| | 空 調 | 朝日・新潟施設特定企業共同体 | |
| | 衛 生 | (株)長岡総合設備 | |
| | ガ ス | 北陸ガス(株) | |
| | 昇 降 機 | (株)東芝新潟支店 | |
| | 外 構 建 築 | (株)植木組 | |
| | 外 構 電 気 | 近藤電機(株) | |
| | 外 構 衛 生 | (株)長岡総合設備 | |
| | 植 栽 | (株)ニューガーデン、(株)芳樹園、(株)宮川苑、(株)日建緑地
吉茂造園(株)、北越緑化(株)、グリーン産業(株)、(株)鈴木造園 | |
| | サ イ ン | 越後観光(株) | |
| | 室 内 標 識 | (株)サン企画 | |
| | 展 示 | (株)トータル・メディア開発研究所 | |
| (4) 総事業費 | 122 億円 | | |

館配置図



3 運営方針

平成 29 年 3 月 30 日、「新潟県立歴史博物館の運営方針（平成 29 年度～33 年度）」を策定した。なお、令和 4 年度からの次期運営方針については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う行動規制など、人々の社会・経済活動に大きな影響を与えている状況を踏まえ、策定を 1 年延期することとした。したがって、令和 4 年度の館活動とその評価は、令和 3 年度までの運営方針をもとに実施することとした。

以下、当該運営方針の本文を掲載する。

1 策定の趣旨

現在、当博物館は「新潟県立博物館の運営方針（平成 24 年度～平成 28 年度）」を定め、資料収集・保管、展示等の諸活動を行っているが、今後ともよりよい博物館づくりを目指すためには、博物館の諸活動の目的を明確化・共有化し、広く県民に提示して不断に活動の検証と改善を行っていくことが引き続き必要である。そのため、今後 5 年間（平成 29 年度～平成 33 年度）を計画期間とした博物館活動の指針となる新たな「運営方針」を定める。

2 当博物館活動の基盤

(1) 博物館条例

当博物館は、歴史・民俗および縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術・文化の振興に資する社会教育施設として平成 12 年 8 月に設置された。資料収集・保管、展示など様々な博物館活動を実施している。

(2) 上位計画

新潟県文化プラン（平成 29 年 3 月改訂版）では、基本目標として「文化で創る、心豊かな『ひと』、魅力ある『地域』…そして未来へ」を掲げ、「ふれる」「つたえる」「つなぐ」の 3 つの施策の方向性を設定し、さまざまな施策に取り組むこととしている。また、県は専門的・広域的な推進役を果たすものと位置づけられている。

(3) 当博物館の運営体制

当館は、開館当初は県文化振興財団に管理運営委託された。平成 18 年度、指定管理者制度の導入に伴う管理運営形態の検討の結果、県の直営とすることとされたが、同時に「指定管理者制度と同様の創意工夫」も求められている。

平成 20 年度には、それまでの諸計画を統合して「博物館運営方針」を定めた。平成 24 年度からはこれを 5 か年の計画として整理した。

さらには、博物館が行う博物館の諸活動の検証・評価を行うため、平成 18 年度からは博物館評価委員会が設置されている。

3 当博物館を取り巻く情勢

当博物館を取り巻く情勢として、主に次のものが挙げられる。

(1) 全般的な社会情勢

- ・長引く景気低迷や雇用不安など厳しい経済情勢が続くなか、国・地方の財政状況は厳しさを増している。
- ・情報通信技術の急速な発展と普及に伴って情報の受発信の在り方が変化してきている。
- ・余暇時間の増大と高齢化に伴って生涯学習機会への要請が高まっている。
- ・本県においては、全国に先行する人口減少が進むなか、県全体の活力低下が懸念されている。

(2) 博物館を取り巻く情勢

- ・経済状況、余暇の多様化などを反映して、全国的に博物館総数、及び一館あたり入館者数とも頭打ちの状況となっている。
- ・その一方で、生涯学習社会の進展とともに、博物館が利用者、地域住民の要請に応えた運営を行って

いくことがますます必要となっている。

- ・本県においては、中越大震災からの復興への取組が進み、またその後も度重なる災害を経験するなかで、歴史資料を次世代へと引き継ぐ取組が求められている。

4 当博物館活動の現状

当館は、平成12年の開館以来、縄文を中心とした本県の歴史・民俗に関して、「収集・保管」、「展示」、「調査・研究」、「交流・普及」、「情報発信」の5つの機能を果たす活動を展開してきた。

具体的には、資料の収集・保存に努めるとともに、研究調査を館活動の根幹としつつ常設展示や年4回程度の企画展を実施してきた。また、館内での講座・体験活動や館外活動、きめ細かな団体案内・展示解説等の充実を図り、学校教育・生涯教育の一翼を担う場としても活用されている。

とりわけ近年は、企画展における各種団体との共催や協力、地域史研究ネットワーク、博物館ボランティアの活発化をはじめ、様々な面で地域連携に取り組んでいる。さらには国の科学研究費等外部資金の獲得による研究等の一層の充実にも努めている。

一方利用者数については、利用者総数（施設機能別（館内外）の利用者数合計）は年間10万人前後で推移している。観覧者数（常設展・企画展の観覧券発行数）はしばらく年間5万人台から6万人で推移していたが、近年は4万人台にとどまる年度もあり、やや漸減傾向にある。

平成23年度には、参事ポスト（にぎわい創出担当）および経営企画課の新設（管理課と交流普及課の統合）を内容とする組織改正を行った。

5 博物館に対する評価

(1) 外部評価委員会による評価

令和3年度の館活動に対する評価報告書では、次のような評価を受けている。

歴史博物館評価委員会 令和3年度評価報告書の概要

- ・令和3年度までの5カ年は、コロナ禍により館活動が大きく制限され、また来館行動も制限されたことから、利用者数や観覧者数においては厳しい結果となった。ただし、利用・観覧者の減少は確かであるものの、令和2年度より導入された新たな観覧料徴収方法（常設展と企画展が別料金）とそれにとまなう観覧者数のカウント方法の変更や、予算削減に伴う年間企画展数の減少があったため、それ以前の実績と正確に比較することができないのが実情である。
- ・利用者の満足度が令和3年度を含めた期間を通じて比較的良好であることは評価に値する。とりわけこの5カ年中にはコロナ禍や、館運営費の大幅な削減に直面しつつも、そうした状況下でもできる新たな対応を模索し、迅速に実行に移す様子が多々見受けられた。常設展における感染症関連の展示コーナーの設置や、SNSの積極活用、県内学校の修学旅行の受け入れなどがその一例である。利用者全般の高評価は、職員のような努力の結果であろう。
- ・今後も感染症との共存を図りながらの活動となることが見込まれる。観覧料の実質値上げや年間企画展数の減少が、館の収集・保管や調査・研究活動の成果に県民が接する機会の減少につながらないか危惧される。令和2年度以降、企画展数の減少を補うべく、館蔵品や借用品による自主企画、いわゆる「テーマ展示」が企画展示室にて開催されているが、担当学芸員の負担はかなり大きいようで、今後どこまで続けられるか懸念もある。
- ・両立の難しい課題が多い中ではあるが、本県の歴史文化の基幹的機関としての機能を維持発展させるには、まずは丁寧な議論が大切なのかもしれない。そこから新たなアイデアが生まれることを期待したい。

6 博物館の基本理念

(1) 基本的な考え方

- 博物館の目的は「新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与する」ことにある。

この目的をよりよく達成するためには、これまで記載した現状・評価等を踏まえ、全職員が「博物館は利用者満足が起点」であることを常に意識し、博物館の基本的活動である資料収集・保存、展示、調査・研究等を着実に進める必要がある。そしてその成果を広く還元すべく、より多くの県民にご来館いただき、あるいは様々な博物館活動に触れていただくための創意工夫に努めることが不可欠である。

- また、地域の関係機関から頼られる拠点施設としての活動を充実するとともに、地域文化を発信する観光拠点としても認知されることにより、多面的機能を有し、かつ、県内外及び国際的にも開かれた博物館としての地位を確立することが必要である。
- これらの取組を着実に推進し、厳しい財政状況の中にあっても、県民から理解され支持される存在として発展していく必要がある。

(2) 当博物館の基本理念

これらの基本的な考え方に基づき、博物館の基本理念を次のとおりとする。

○県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
 ○人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。
 こうした活動を通して
 『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

7 博物館活動の目標

この理念に基づいて活動を進めていくにあたっての成果指標として、博物館の利用者数、及び利用者の満足度を掲げる。

指 標

- 1 博物館利用者数
- 2 博物館利用者の満足度

指 標		現状値(令和3年度)	目 標
1 利用者数	①利用者総数 (政策プラン指標)	(単年度) 40,472 人	各指標を増加させる
		(前計画期間平均) 102,822 人	
	②観覧者数	(単年度) 35,212 人	
		(前計画期間平均) 52,830 人	
2 満足度 (単年度)	①来館者満足度	96%	各指標を維持・向上させる
	②企画展	91%	
	③講座等	講座・講演会 95% 体験コーナー 100%	
	④来館者対応	—%	

[各指標の数値について]

1-① 利用者総数

博物館が行う以下の活動・機能ごとの利用者を加算した数値

〔 常設展＋企画展＋講演会・講座＋体験コーナー＋その他イベント等＋
館外活動（出前講座・授業、移動・巡回展） 〕

1-② 観覧者数

常設展及び企画展のチケット販売数＋無料観覧者・視察者

2-①～④ 満足度 利用者・参加者等のアンケート回答に基づく

8 博物館の活動方針

上の目標と併せて、博物館の使命達成と基本理念の実現に向けた活動を行っていくため、当博物館が有する機能や主な取組分野ごとに以下のとおり活動方針を定める。

(1) 収集・保管

- ・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めると共に、そのデータ化を推し進める。
- ・良好な資料保存環境を維持する。

(2) 展示

◇ 常設展示

- ・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。
- ・常設展示の十分な活用を推し進める。

◇ 企画展示

- ・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。
- ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。

(3) 調査・研究

- ・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。
- ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。

(4) 教育・普及

◇ 学校教育

- ・学校教育に一層活用される博物館を目指す。
- ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。
- ・館内及び館外活動の充実を図る。

◇ 社会教育

- ・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。
- ・館内及び館外での活動の充実を図る。

(5) 連携

◇ 学術面の連携

- ・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。
- ・幅広い団体とのネットワークを強化する。

◇ 地域づくりに向けた連携

- ・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。
- ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。

(6) 情報発信

- ・当館の活動について、県民認知度を高める。
- ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。

(7) 管理運営

- ・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。
- ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。
- ・来館者への安全・安心の提供に努めるとともに、来館者などの関心や目線に常に注意を向ける。

9 活動方針に基づいた取組の実施・進捗管理

上記の活動方針の達成を目指した博物館活動が確実に行われるよう、取組分野ごとの今後5年間の「主な実現方策」、及び5年後の到達目標となる「評価指標」を定める。(別表)

また、各年度の具体的な取組については、今後の社会情勢の推移、県民や利用者のニーズの変化、現実の館運営体制などに応じたものとする必要があるため、本計画の「活動方針」・「主な実現方策」のもと、各年度において検討する。

こうした博物館活動の取組について、毎年度、館内での自己評価を行うとともに、評価委員会からの評価を受ける。これらを通じてPDCAサイクルによるマネジメントに取り組む。

活動の評価にあたっては、博物館の使命達成の観点から多面的に分析を行う。

10 更なる充実に向けての課題

当博物館が更なる充実した活動を行っていくには、上に掲げた活動方針の達成に併せて、次に記載するような課題に取り組んでいく必要がある。これらの課題は、外部要因に大きく依存するものや、博物館単独では解決が困難なものであるが、当館として可能な限りの進展を目指して取り組む。

- ・博物館資料のデータベース化の推進
- ・施設・設備の大規模改修等による展示環境・資料収蔵環境の改善
- ・アクセス改善やレストラン・ショップの継続的営業による来館者サービス向上
- ・博物館の人事・組織体制の充実
- ・外部団体や支援者との協働推進

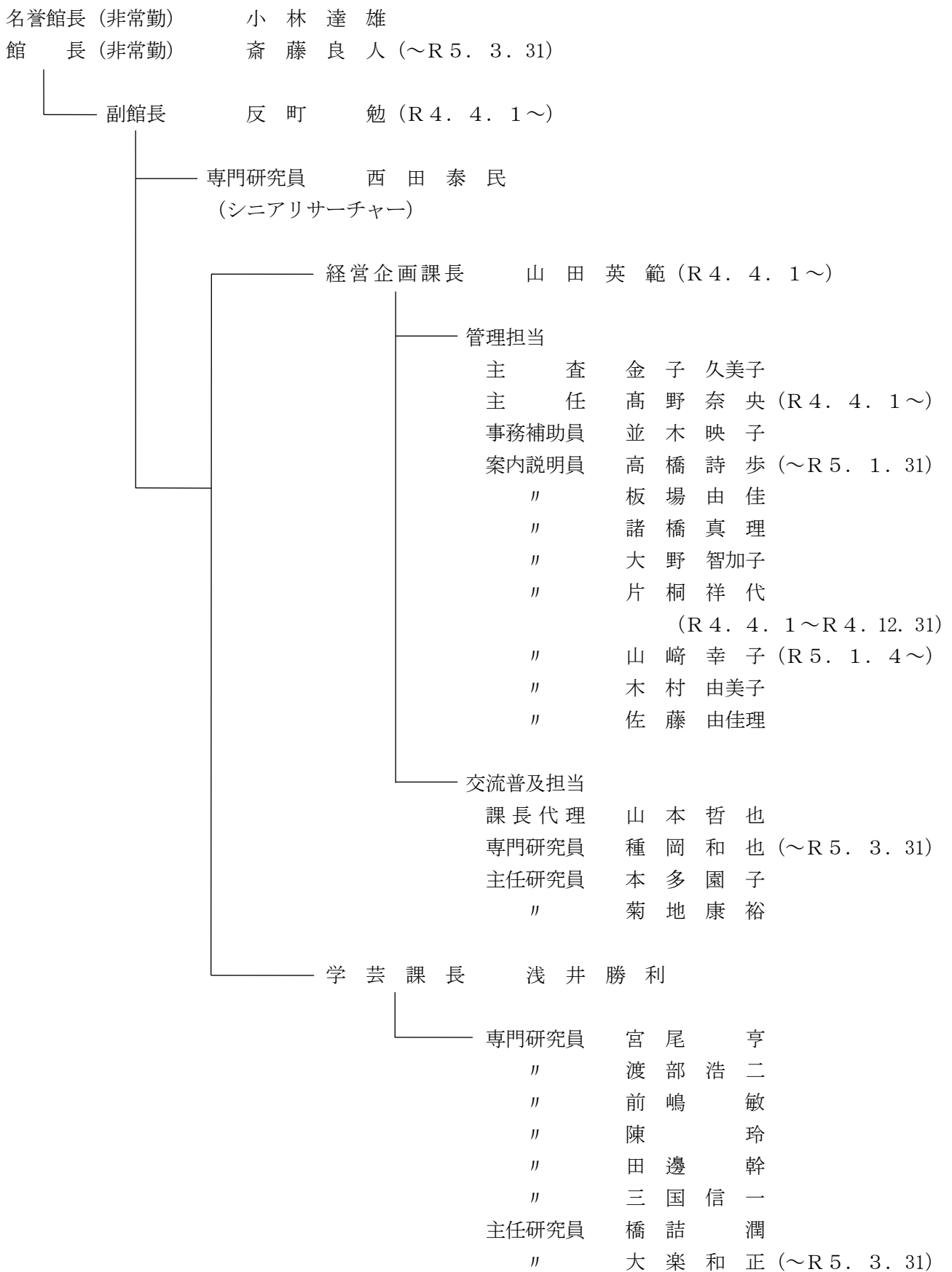
新潟県立歴史博物館運営方針（平成29年度～平成33年度） 取組分野ごとの活動方針とその進捗管理

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標		
				項目	現状値 (H28)	目標値 (H33)
収集・保管	収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めることにも、そのデータ化を進め、 良好な資料保存環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集の継続と収蔵資料の整理を推進する。 IPMによる環境管理を徹底する。 	収蔵資料目録の刊行冊数	1日録	1日録
				データベース公開数		300件以上
展示	常設展示	<ul style="list-style-type: none"> 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 常設展示の十分な活用を兼し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	新規テーマ展示	2件	2件以上
				ファンポイント解説	588人	500人
調査・研究	企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 集客を意識し、市民の関心を反映した企画展示に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 入場者の満足度を高める。 	企画展示室開催事業数	7回	7回以上
				満足度	91%	90%
調査・研究	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 歴史動向の最新である調査研究の成果の市民への還元を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を市民に還元する。 講座参加者の満足度を高める。 	外部研究費取寄せ件数	4件(+3)	6件
				学会発表等件数	13回	11回以上
教育・普及	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 校内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関への施設利用の周知。 体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	論文等執筆件数	52件	55件以上
				県内小・中学校利用率	31%	35%
教育・普及	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 市民の知識・教養を高め、市民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 館内及び館外での活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育機関との連携に努める。 館内講座・事前講座を継続する。 ボランティアの受入の推進。 	体験活動の新プログラム導入件数	5件	1件以上
				体験コーナー参加者満足度	90%	90%
連携	学術面の連携	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 幅広い団体とのネットワークを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 県内外の他館および団体と連携しての巡回展の実施に努める。 	出前講座の参加者満足度	92%	90%
				館員の講座・講演会の参加者満足度	94%	90%
連携	取組の進捗に課題	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を通じた県内各団体の連携づくりに貢献する。 互換の施設や様々な団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体との事業共催等による連携を推進する。 リピーターや新観光客の拡大に向けた広報の展開。 ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 県外者誘致のための広報に努める。 観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。 	ボランティアの活動延人数	538人	500人
				地域史研究ネットワーク事業数	2件	2件以上
情報発信	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 当館の活動について、市民認知度を高める。 本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価・外部評価の実施。 評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立。 	展示協力等他機関との連携事業数	継続	継続
				地域団体の活動への参加件数	30件	15件
管理運営	管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新開・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	213/134/170件	200/100/150件
				館ホームページへのアクセス件数	129,764件	100,000件
				全体収支比率	5%	(5%)
				(評価指標の達成率)	67%	(100%)

注1) 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース(予算・人員等)が、計画期間において維持されることを前提とする。

注2) 活動の評価にあたっては、その内容面を含めて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。

4 組織図



5 事務分掌（令和4年4月1日現在）

名誉館長 小林 達雄
 館長 齋藤 良人
 副館長 反町 勉
 専門研究員（シニアリサーチャー）
 （にぎわい創出担当） 西田 泰民

経営企画課

	事務分掌	主任	副主任
1	課の総括に関する事	山田 課長	山本 課長代理 種岡 専門研究員
2	各課との連絡調整に関する事	〃	金子 主査 種岡 専門研究員
3	人事・服務・一般研修に関する事	〃	高野 主任
4	公印の管理に関する事	〃	〃
5	課内会議に関する事	〃	種岡 専門研究員
6	文書主任の業務に関する事	〃	高野 主任
7	館の防災・安全、避難訓練に関する事	〃	金子 主査
8	館運営に対する苦情処理に関する事	〃	高野 主任
9	臨時職員の採用に関する事	〃	〃
10	観光関連産業等との連携・広報宣伝・誘客促進等に関する事	〃	山本 課長代理 種岡 専門研究員

経営企画課 管理担当

	事務分掌	主任	副主任
11	職員の勤務割作成に関する事	金子 主査	山田 課長
12	予算編成に関する事	〃	高野 主任
13	予算執行管理（施設・設備の維持管理を除く）に関する事	〃	〃
14	給与・報酬・報償費・旅費に関する事	〃	〃
15	事務用消耗品（切手管理を含む）の調達に関する事	〃	〃
16	科学研究費等外部資金の経理に関する事	〃	〃
17	観覧料等の減免に関する事	高野 主任	金子 主査
18	現金の出納・保管に関する事	〃	〃
19	案内説明員の研修に関する事	〃	〃
20	財産管理に関する事	〃	山田 課長
21	施設・設備の維持管理に関する事	〃	〃
22	収入（観覧料・図録販売収入・土地建物使用料等）に関する事	〃	金子 主査
23	観光券契約・精算徴収に関する事	〃	〃
24	観覧者統計に関する事	〃	〃
25	備品の管理に関する事	〃	〃
26	公用車の運行に関する事	〃	〃
27	路線バス運行に関する事	〃	〃
28	事務用消耗品の在庫管理に関する事	並木 職員	金子 主査
29	文書の收受、発送に関する事	〃	〃
30	拾得物の管理に関する事	〃	〃
31	救護室、授乳室、ロッカー室の日常点検、整理整頓に関する事	〃	高野 主任
32	その他の事務補助に関する事	〃	〃
33	観覧券・図録の販売、集計に関する事	高橋案内説明員 板場案内説明員 諸橋案内説明員 大野案内説明員 片桐案内説明員	高野 主任
34	入館者の受付及び整理に関する事		種岡 専門研究員
35	展示場における展示物等の説明及び監視に関する事		高野 主任
36	展示物の操作及び体験活動に関する事		金子 主査
37	案内及び広報に関する事		渡部 専門研究員
38	その他博物館の展示場に関する事		
39	入館者の受付及び整理に関する事	木村案内説明員 佐藤案内説明員	高野 主任
40	展示場における展示物等の説明及び監視に関する事		種岡 専門研究員
41	展示物の操作及び体験活動に関する事		金子 主査
42	収蔵資料の分類・整理に関する事		渡部 専門研究員
43	その他の事務補助に関する事		

経営企画課 交流普及担当

	事務分掌	主任	副任
1	広報の総括に関する事	山本課長代理	種岡専門研究員 本多主任研究員
2	誘客促進の総括に関する事	〃	種岡専門研究員
3	博物館の支持・支援団体の育成に関する事	〃	金子主査
4	常設展示の利用・案内説明員研修に関する事	〃	種岡専門研究員
5	博物館協会（日本博物館協会、県博物館協議会、東北美術館会議等）等との連絡・調整に関する事	〃	菊池主任研究員
6	年報発行の計画・調整に関する事	〃	種岡専門研究員
7	他館、社会教育関係機関、団体等との連携・企画及び調整に関する事	〃	本多主任研究員
8	企画展における開場式に関する事	種岡専門研究員	山本課長代理
9	学校教育との連携・企画及び出前授業の計画・調整に関する事	〃	本多主任研究員 菊地主任研究員
10	ボランティアの受入れ及び育成に関する事	〃	菊地主任研究員 橋詰主任研究員
11	館内ガイド発行の計画・調整に関する事	〃	山本課長代理
12	刊行物の管理に関する事	菊地主任研究員	本多主任研究員
13	発送業務（企画展後援依頼を含む。）に関する事	〃	本多主任研究員
14	館内又は館外講座・教室等の企画及び調整に関する事	〃	種岡専門研究員
15	サイノカミ等地区活動に関する事	〃	山本課長代理
16	体験プログラムの運営に関する事	〃	本多主任研究員
17	教育プログラムの企画・開発に関する事	〃	山本課長代理 種岡専門研究員
18	Web情報発信（館ホームページ）に関する事	本多主任研究員 山本課長代理	種岡専門研究員
19	Web情報発信（SNS、メールニュース等）に関する事	本多主任研究員	種岡専門研究員 菊地主任研究員
20	企画展関連広報（マスコミ対応）に関する事	本多主任研究員	山田課長 菊地主任研究員
21	広報結果の集約に関する事	〃	種岡専門研究員 金子主査
22	その他の情報発信（高校等）に関する事	〃	山本課長代理 菊地主任研究員

学芸課

	事務分掌	主任	副任
1	課の総括に関する事	浅井課長	宮尾専門研究員
2	課の予算編成及び執行管理に関する事	〃	〃
3	館内の各課との連絡調整に関する事	〃	〃
4	課員の勤務割作成に関する事	〃	〃
5	リニューアルに関する事	西田専門研究員	前嶋専門研究員 山本課長代理 山田課長 高野主任
6	外部評価委員会に関する事	西田専門研究員	山本課長代理 種岡専門研究員 金子主査
7	資料収集（購入・寄託・寄贈）に関する事	三国専門研究員	田邊主任研究員
8	資料の整理及び保管に関する事	〃	〃
9	資料の貸借に関する事	〃	〃
10	資料保存環境に関する事	橋詰主任研究員	三国専門研究員
11	資料管理システムの管理・運用に関する事	宮尾専門研究員	〃 浅井課長
12	写真・フィルム資料の整理及び保管に関する事	宮尾専門研究員	大楽主任研究員
13	加入学会・共同図書購入に関する事	〃	〃
14	図書の整理及び保管に関する事	大楽主任研究員	宮尾専門研究員
15	常設展示室に関する事	渡部専門研究員	大楽主任研究員
16	常設展示ロビー・講堂研修室・映像情報コーナー・図書閲覧コーナーに関する事	〃	〃

17	常設展示室の展示替え計画に関すること	渡部専門研究員	陳専門研究員
18	常設展示室の活用に関すること	陳専門研究員	渡部専門研究員
19	個別研究・総合研究の調整に関すること	宮尾専門研究員	渡部専門研究員
20	研究活動評価に関すること	〃	〃
21	研究紀要の編集・刊行に関すること	橋詰主任研究員	〃
22	科研費等外部資金による研究事業に関すること	前嶋専門研究員	〃
23	新潟県地域史ネットワークに関すること	前嶋専門研究員	陳専門研究員
24	博物館実習の企画及び調整に関すること	〃	三国専門研究員
25	企画展・巡回展の開催計画に関すること	田邊専門研究員	橋詰主任研究員
26	企画展示室の運用と管理に関すること	〃	〃

企画展・テーマ展示担当

	事務分掌	主任	副任
27	【令和4年度】 (春) 江戸美人のよそおい	大楽主任研究員	陳専門研究員 田邊専門研究員 山本課長代理
28	(夏) 重要文化財村尻遺跡出土品	宮尾専門研究員	橋詰主任研究員 菊池主任研究員
29	(秋) 生業絵巻尽一ひらけ！江戸の産業図鑑一	渡部専門研究員	前嶋専門研究員 種岡専門研究員
30	(冬) 大河津分水と信濃川の治水	田邊専門研究員	三国専門研究員 本多主任研究員
31	【令和5年度】(仮) (春・企画展) 伝えるー災害の記憶	田邊専門研究員	大楽主任研究員 菊池主任研究員
32	(夏・企画展) 景勝	前嶋専門研究員	渡部専門研究員 本多主任研究員
33	(秋・テーマ展示) 守れ！文化財	橋詰主任研究員	山本課長代理 宮尾専門研究員
34	(冬・テーマ展示) 暮らしの中の美	陳専門研究員	三国専門研究員 種岡専門研究員

6 予算（令和4年度当初）

1 収入の部

（単位：千円）

項 目	金 額	備 考
事業収入	15,604	
歴史博物館維持管理費	225	
建物使用料	29	自動販売機建物使用料
雑入	196	自動販売機光熱水費
歴史博物館事業活動費	15,379	
歴史博物館使用料	15,118	観覧料
物品売払収入	261	図録等売払収入

2 支出の部

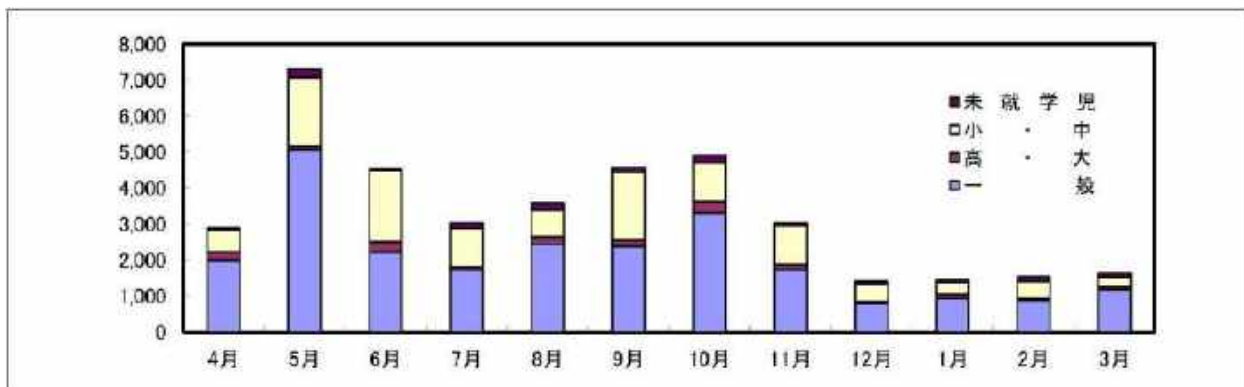
（単位：千円）

項 目（事業名）	金 額	備 考
歴史博物館事業費	164,186	
歴史博物館運営費	128,687	
人件費	21,314	館長・非常勤職員等給与費等
管理運営費	4,954	消耗品費・館リーフレット等印刷費・通信運搬費等
情報システム管理費	946	機器リース・保守料・消耗品費
維持管理費	93,857	施設設備保守管理委託・光熱水費等
資料保存管理費	6,989	資料くん蒸・環境調整
維持補修費	660	施設修繕費
歴史博物館事業活動費	32,633	
資料収集・保存事業	156	資料収集諸経費
調査研究事業	4,743	総合・個別調査研究費・基本文献整備費
常設展示事業	11,513	展示物展示替・保守点検費
企画展等展覧会開催費	16,221	企画展開催費（2回）・開催準備費
インバウンド対策充実事業	0	
歴史博物館交流普及事業費	2,866	
諸講座開催費	99	消耗品、保険料
交流普及事業費	2,767	広告費・研究成果普及費等
歴史博物館施設設備整備費	0	

7 令和4年度観覧者の状況

(1) 月別・利用者別観覧者

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一 般	1,989	5,054	2,216	1,730	2,449	2,389	3,309	1,732	798	928	880	1,179	24,653
高・大	225	109	279	77	182	165	315	137	44	108	47	85	1,773
小・中	604	1,904	1,966	1,080	765	1,888	1,087	1,074	494	321	481	257	11,921
未就学児	67	229	70	143	187	134	187	87	74	91	115	105	1,489
合 計	2,885	7,296	4,531	3,030	3,583	4,576	4,898	3,030	1,410	1,448	1,523	1,626	39,836



(2) 年間利用者別観覧者割合



(3) 企画展の状況

■ 春季企画展

「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」 4月23日(土)～6月5日(日) 観覧者数 5,509人 (141人/日)

■ 夏季テーマ展示

「重要文化財村尻遺跡出土品」 7月16日(土)～8月28日(日)
期間中総観覧者数 5,056人 (130人/日)

■ 秋季企画展

「生業絵巻尽一ひらけ！江戸の産業図鑑」
9月17日(土)～10月30日(日) 観覧者数 3,329人 (88人/日)

■ 冬季テーマ展示

「大河津分水と信濃川の治水」 11月12日(土)～1月15日(日)
期間中総観覧者数 4,283人 (87人/日)

8 ボランティア

平成21年4月から募集、活動を開始した。令和4年度の登録数は25人。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から縮小していた活動を徐々に再開している。

【活動実績】(延べ人数)

- ・研修等(57人)
- ・常設展展示替え、ケース移動(6人)
- ・民俗資料整理(36人)
- ・図書資料整理(57人)
- ・考古資料整理(10人)
- ・講座受付(36人)
- ・体験活動補助(55人)
- ・アンケート補助(1人)
- ・文書発送作業(20人)

毎年夏に実施している中学生ボランティアは、2名が参加した。(研修5日間、活動6日間)

9 情報管理システム

クラウドによる資料管理システムでは、当館の資料管理方法に合致させるためにカスタマイズを行い、従来のシステムで作成したデータを登録した。同システムでは、インターネット上に情報を公開する機能が備えられているため、これを利用して収蔵資料検索サービスをホームページ上に設置した。

10 ホームページ

館の公式Webサイトについては、従来は館内にWebサーバを設置して公開していたが、外部にレンタルサーバを借り、ドメインについては、既に各所で周知されていることなどを考慮しこれまでと同じものを引き続き使用することとした。平成25年度にホームページをリニューアルしている。

令和4年度のアクセス数の多いコンテンツは、1企画展示、2館内のご案内、3ご利用案内、4常設展示、5歴史博物館とは、などとなっている。

令和4年度ホームページのアクセス集計

令和4年度	訪問数	ユーザー数	閲覧者 1日平均
2022年4月	11,306	8,842	295
2022年5月	13,820	10,932	353
2022年6月	10,434	8,147	272
2022年7月	10,519	8,277	267
2022年8月	11,885	9,238	298
2022年9月	10,286	7,967	266
2022年10月	9,412	7,304	236
2022年11月	8,269	6,646	222
2022年12月	6,263	5,026	162
2023年1月	8,555	6,508	210
2023年2月	7,825	6,138	219
2023年3月	9,631	7,393	238
計	118,205	92,418	253.0

11 メールニュース・SNS

平成12年度より、インターネットのメールシステムを利用して希望者に館の情報などを提供するメールニュースを送付している。現在、メールニュースの登録アドレス数は152件であり、令和4年度中に送信したメール数は17(-5)件であった。(※()は前年度比、以下同じ)

また平成26年度から公式Facebook、平成27年度から公式Twitterを開設。さらに、平成29年11月の試験運用を経て、平成30年3月からInstagramの本運用を開始した。令和4年度の投稿件数は、Facebookが417(+60)件、Twitterが494(+90)件、Instagramが415(+59)件である。

令和2年度から広報担当(専任)が削減され、研究員の兼任により運営せざるを得なくなったが、その状況の中でも1日平均1回は投稿し、定期的な情報配信に努めている。

12 評価委員会

令和4年度内においては、令和3年度の評価報告書作成の作業と提出、令和4年度の中途段階までの評価が実施された。

令和4年度の評価委員会構成は以下のとおり(令和3年度から継続)。

- ・委員長 田中咲子氏(新潟大学教育学部 准教授)
- ・副委員長 山本未知雄氏(十日町市立松代小学校 校長)
- ・委員 内藤一恵氏(内藤一恵建築設計事務所)
- ・委員 大塚清一郎氏(新潟日報 長岡支社長)
- ・委員 金山宏行氏((一社)長岡観光コンベンション協会 会長)
- ・委員 湯浅健次郎氏(新潟市會津八一記念館 学芸員)

開催した評価委員会、検討会は以下のとおりである。

- 6月3日(金) 令和3年度第2回評価委員会
内容:令和3年度評価について
- 7月11日(月) 令和3年度第2回検討会
内容:令和3年度評価報告書について
- 11月25日(金) 令和4年度第1回評価委員会
内容:令和4年度評価委員会スケジュールについて、
令和4年度事業中間報告について
- 3月8日(水) 令和4年度第1回検討会
内容:令和4年度自己評価(中間)について

なお、8月26日(金)、県庁において、田中咲子委員長より観光文化スポーツ部長、文化課長および歴史博物館長に「令和3年度における館の自己点検に対する二次点検評価報告書」が提出された。

13 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応

新型コロナウイルス感染症は、終息の見込みのないまま令和4年度を迎えたが、引き続き感染症対策を行いつつ、活動を行った。令和4年度の主たる経緯は以下のとおりである。

【企画展示室の人数制限】

企画展示室内の入室者数または企画展示室もぎりで入退出者数を確認しつつ、企画展示室内の観覧者数が100人を超えそうな場合に入室制限を行い、室内の人数をコントロールする方法で対応することとしたが、適用はなかった。

【中止となった事業及び縮小開催等のあり方】※昨年度の再掲あり

- ・学校団体の受け入れは、基本として1クラス20人以上を超える場合、2グループに分けるなどの措置を講じ、案内時に極力密となることを避ける方策を採った。ただし「雪とくらし」コーナーは15人以上を超える場合とした。(コロナ禍当初からの継続実施)
- ・学校団体等で行う体験プログラムのうち、密にならざるを得ない活動のため令和3年度まで中止としていた火おこし体験を再開することとし、6月以降要望を受けて実施に至っている。
- ・まが玉づくり体験は1回の体験で60人までに制限(令和3年度まで40人のところを増員)。ソーシャル・ディスタンスの維持、道具の消毒などを行ったうえで実施した。(コロナ禍当初からの継続実施)
- ・図書コーナー、映像情報コーナー、ハンズオン系展示の使用の中止を年度当初は継続。ただし、図書コーナー、映像情報コーナーは、図書館のガイドライン変更を受けて検討の結果復旧を決定し、9月8日に原状復帰後、利用を再開した。
- ・音声解説器には感染症対策としてビニールカバーをかけて貸し出していたが、基本的に連続で使用しないので、その間で殺菌されると考え、9月9日以降かけずに対応することとした。
- ・研修室での座学の講座の定員を18名から36名に増員(6月から)。ただし、申し込みが37名以上の場合は講堂に会場を変更して実施した(講堂は本来講堂映像上映があるため講座の開催は原則研修室としており、会場を講堂に変更するのは申し込み多数の場合の特例としている)。
- ・感染症対策としての連絡先把握(常設展示ワンポイント解説、講座、体験プログラム)については感染者の全数把握もなくなり、また追跡もされないとして、9月10日の該当時以降は行わないこととした。
- ・体験プログラムは、原則日曜日の13:30~15:30(15:00受付終了)に研修室にて行うこととし、室内の参加者人数が20人を超えないように調整しながら実施していたが、
- ・体験プログラム「謙信・兼続に変身」「平安貴族に変身しよう」を、まず4月2日、9日、16日の各土曜日に、各1グループの申込制で体験コーナーにて限定開催した(1回につき家族等居住を同じくするなどのグループでの着回しを可とし、その後1週間置くことでウイルス不活性化の上、実施することとした)。また11月6日、13日、20日に「謙信・兼続に変身」を、12月4日、11日、18日に「平安貴族に変身」をそれぞれ3組までの申込制で同じく体験コーナーにて開催した(各日曜日の体験プログラム通常開催日)。
- ・コロナ禍以降研修室での開催とした体験プログラムは11月6日の「謙信・兼続に変身」を機に体験コーナーでの通常開催とすることとし、11月26日、27日の「切り紙で正月飾り」を研修室開催とした以外の体験プログラムはすべて体験コーナーにて開催することとした。
- ・学校団体の講堂映像利用は、人数制限を加えつつ可とした(1回に50%、75席を原則)。(令和2年度からの継続)
- ・学校団体等の昼食時の研修室・フリースペースの利用は、一度の利用人数を調整(20人~30人程度)しつつ可とした。(令和2年度からの継続)

- ・国際博物館の日記念の無料観覧日は、蜜を避けるため直前のHPによる以外の広報を行わなかった。サイノカミについては令和3年度はHP以外の広報を控えていたが、4年度は従来通りとした（マスク等への情報提供を再開）。

【その他】（令和2年度からの継続）

- ・エントランスに検温器（手指消毒機能付き）を設置した。
- ・HPにて当館の感染症対策について公表、周知を図った（政府の発表や日本博物館協会のガイドライン更新をもとに随時修正）。

II 事業概要

1 学芸事業概要

(1) 常設展示

ア 事業主旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するため、これらについての展示を行う施設を公開して維持・管理すると共に、新たな知識の増進と資料の保護を目的として、展示更新・展示替えを随時行う。常設展示を維持・管理すると共に、資料の保護を主目的として、資料展示替えを行う。

イ 展示構成

常設展示は、歴史展示と縄文展示から構成されている。前者には「新潟県のあゆみ」「雪と暮らし」「米づくり」、後者には「縄文人の世界」「縄文文化を探る」の各展示室がある。

① 新潟県のあゆみ

古い時代から新しい時代へと時間に沿って、より良い未来をめざして努力した、新潟県の先人たちの姿を紹介する。以下の8つの項目で展示を展開している。

新潟のあけぼの	移動生活から定住へ
	米作りのはじまりと権力者の登場
古代の新潟	文字によるまつりごと
古代・中世の文化ステージ	(原則半年1回展示替)
中世の新潟	中世の新潟
	地頭と荘園
	戦国大名上杉謙信
近世の新潟	近世の越後と佐渡
近世・近現代の産物	交流する産物
	越後・佐渡産物くらべ
	現代に生きる越後・佐渡の産物
近世・近現代の人物	良寛と牧之
	新潟県が生んだ人々
近現代の新潟	近代の新潟
	新潟県的女性
	交通網の整備と大河津分水工事
	花開く文化
	戦争と県民
	地主王国新潟県
	新潟、今・未来

② 雪と暮らし

「自然との共生と克服」を視点に、雪による多大な影響を受けつつも、除雪方法・衣食住に独特の工夫をし、よりよい暮らしを確保しようと努力を続けた先人たちの姿を紹介する。1階部では、昭和30年代初頭の冬の高田（現上越市）の雁木通りと、荒物・雑貨屋と一文店、下駄屋の3軒の商店を復元している。2階部では、雪国の工夫を凝らした民具などを中心に、暮らしの様子を紹介している。

プロローグ	雪国へのいざない
雪国の町 高田の雁木通り	荒物・雑貨屋
	一文店
	下駄屋
雪国のくらし	町のくらし
	雪と民具
	雪国 点描
豪雪の姿	豪雪の町・村
	36・38 豪雪記録
雪国は今	冬の交通革新
	雪は邪魔？
エピローグ	昔の雪国と現代の雪国

③ 米づくり

「雪とくらし」展示室と同様に、「自然との共生と克服」を視点に、本来米作りに適さなかった自然条件を克服し、また1年を通して自然との共生を図りながら全国有数の米どころを実現させた人々の努力の様子を紹介している。

プロローグ	越後平野とはさ木
土づくりの努力	西蒲原三潟水抜き
	江戸時代の新田開発
	美田の誕生
協力と工夫の米づくり	米づくりの1年と祈り
	描かれた米づくり
	品種の改良
	米づくりとその周辺
	米づくりの道具
エピローグ	世界の食事風景

④ 縄文展示

世界的にも稀な、豊かな食料採集経済を営んでいた縄文人の暮らしについて、全国的・世界的な視野から紹介する。2つの展示室から構成される。「縄文人の世界」では、縄文人が四季の移り変わりに対応して、さまざまな技術を開発しながら暮らしていた様子を、実物大で復元、再現している。「縄文文化を探る」では、最新の考古学研究成果に基づき、実物資料などを用いながら縄文人の実像、その暮らしを紹介する。

プロローグ	縄文土器の文様世界
縄文人の世界	聖なる空間：竪穴住居
	冬の狩り
	春の採集
	夏の海
	秋の広場
縄文文化を探る	研究室へようこそ
	人とももの交流
	縄文工芸
	縄文人の住宅事情
	縄文人の食生活

	縄文の祈り
	火焰土器の世界
	縄文時代の人々
	縄文人の一生
	新潟県の遺跡
エピソード	自然との共生

ウ 音声解説器・ろう者用ガイド冊子

常設展示の観覧に供する音声解説器を用意し、無料で貸し出している。開館当初の総数 300 台。日本語・英語・ロシア語・中国語・韓国語の 5 カ国語があり、日本語は全台数で対応、英語・ロシア語は 180 台（A タイプ）、中国語・韓国語は 120 台（B タイプ）が対応。

令和 4 年度の音声解説器貸出件数は、1,258 件（個人利用 899 件、団体利用 359 件）、観覧者数 39,836 人中約 3.2%の利用率であった。

また、音声解説器の利用が困難な、ろう者を主な対象とする冊子『《音声解説器・映像の音声などを文字で読む》新潟県立歴史博物館常設展示 展示解説』を平成 25 年度末に作成（150 冊）。無料で貸し出している。令和 4 年度の貸出は 2 件であった。

エ 常設展解説アプリ「新潟レキハク」

来館者個人のスマートフォン（Android、iOS）で常設展示解説が可能になるアプリ、「新潟レキハク」を整備し令和 2 年 4 月から運用を開始した。

貸し出しを行っている音声解説器と内容は同じで、来館者の位置に応じて、音声に加え、テキストと写真が画面に表示される。

また、従来の日本語、中国語、韓国語、英語、ロシア語に加えて、スペイン語の解説を追加した。

オ 常設展示の保守点検・補修

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するに足る正確性や美観等を維持し、来館者の安全を確保するため、常設展示室（常設展示ロビー、講堂、映像情報コーナーを含む）の保守点検・軽微補修、音声解説器や照明機器の補修・補充等を行っている。

常設展示室は、来館者が展示物と至近で接触できるように設計され、展示内容を体感できることを特色としている。そのため、露出展示や通路を兼ねた実物大環境復元展示などが多数あり、消耗と破損が不可避となっている。

令和 4 年度は、7 月、2 月に総合的な点検を行い、露出展示や通路を兼ねた実物大環境復元展示などの清掃及び軽微補修を実施し、展示効果の維持と安全の確保を達成した。照明器具については、月 2 回、定期的に点検し、機器の故障や消耗に対応した。

また、縄文展示「縄文人の世界」入口のレリーフ部分の一部剥離が平成 29 年度に確認されたため、打音検査を引き続き行うとともに、接着補修を行った。

なお、音声解説器の交換部品が入手困難となり、今後故障機器の修繕は不可能になった。現在使用可能台数は A タイプ 145 台、B タイプ 101 台である。今後も使用台数が減少する可能性がある。

カ 資料展示替え

博物館の基本的機能である資料保存の観点から、年 2 回（上半期：4～9 月・下半期：10～3 月）の定期的な資料展示替えを行っている。特に展示環境の影響で劣化の進む可能性のある文書や絵画などの資料を中心に、常設展示の構成を変更しない範囲で資料展示替えを行っている。なお、文書や絵画などの資料展示では、照度環境 150lx 以下に設定し、適正な温湿度にケース内が保たれるように調整している。

令和 4 年度は、以下のコーナーで展示替えを行った。

① 新潟県のあゆみ

a 「古代の新潟」

「文字によるまつりごと」を、上半期は蔵ノ坪遺跡（胎内市）出土の木簡や墨書土器（いずれも複製）などで、下半期は佐渡国正税帳（複製）などで構成した。

b 「古代・中世の文化・交流」

「柿崎古墓」（剥取／上越市教育委員会寄託）の他に、上半期には柿崎古墓出土の壺や水晶玉（いずれも実物）を、下半期2月7日（火）以降には日蓮書状（複製）、べしみ面（複製）を展示した。

c 「中世の新潟」

「戦国大名上杉謙信」を、紀州本川中島合戦図屏風（複製）と上杉謙信画像（複製）などで構成し、上半期・下半期とも入れ替えた。また、上半期には直江状（実物）などを展示した。

d 「近世・近現代の人物・産物」

産物の展示では、佐渡金銀山絵巻（実物）の場面変更や村上木彫堆朱（実物）の入れ替えを行った。また、人物の展示では「良寛・牧之」に関して、解説グラフィックを含む展示資料を上半期と下半期に変更した。「海外を見る眼」では、上半期・下半期で北夷談（複製）や新訂坤輿略全図（実物）などの資料を入れ替えた。

e 「近現代の新潟」

北越戊辰戦争関連資料（複製）、銀行券（複製）、小作争議と農民運動関連資料（複製）、満州関連資料（実物）などを上半期・下半期とも入れ替えた。

② 雪とくらし

「雪国のくらし」では、コスキなどの除雪道具（実物）の入れ替えを行った。

③ 米づくり

「描かれた米づくり」では、上半期4～6月に四季耕作図屏風（実物）と農耕欄間絵（複製）を展示し、7～9月には「低湿地の米づくりの身支度」として館藏品と岩室民俗史料館（新潟市西蒲区）所蔵の仕事着から、新規テーマ展示を構成した。下半期には四季耕作図屏風（複製）と四季耕作図絵馬（複製）を展示した。「米づくりとその周辺」では、下半期に「藁の呪物で災いを除ける」として身近な素材であった藁が、災いを除けるための呪物として利用されてきたことを示す資料（いずれも実物）を展示した。

④ 縄文文化を探る

「新潟県の遺跡」では、上半期に青田遺跡（新発田市）の櫛2点を展示した。11月3日（木・祝）～2月5日（日）には、ヒスイ「県の石」指定記念ミニ展示を行い、県内出土のヒスイ製大珠7点を含む計22点を展示し、その後も一部ヒスイの展示を継続した（いずれも実物）。

⑤ 常設展示替における資料の交換点数

令和4年度年間交換資料点数 112点

うち、新規展示資料点数 35点

キ 常設展示ロビー

常設展示室の中央に位置し、ここを基点にして「新潟県のあゆみ」「雪とくらし」「米づくり」「縄文人の世界」の4つの展示室に入ることができる。なお、平成17年度より青田遺跡出土の丸木舟（実物）を展示している。

また、上部には大型の特殊照明（ロビー映像）があり、4面の大スクリーンで縄文時代をイメージした映像ソフト等を上映している。ただし、令和2年度以降、機器の故障のため上映中止となった。

ク 映像情報コーナー

映像ライブラリー、デジタル博物館、情報検索サービスから構成される。ただし、令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、9月8日まで使用を中止していたが、それ以降は利用を再開した。

① 映像ライブラリー

2台あったDVDが、平成28年度より機器の故障により1台となっていたが、令和元年度に新機器にした。以下の映像情報を選んで見ることができる。

- a ふるさとの芸能
- b ふるさとの行事
- c ふるさとの昔話
- d 伝統の技
- e 縄文文化
- f 中越・中越沖地震
- g 展覧会

② デジタル博物館

5台のパソコンで縄文・雪・米に関わるソフトを見ることができる。

- a 発見！縄文ワールド
- b 雪国くらし体験
- c なんでも米蔵

③ 情報検索サービス

平成28年度より、新規の館収蔵資料検索用パソコン1台を導入し、操作性が向上した。これにともない従来の「新潟県の文化財」、「県内外の遺跡」の検索は廃止した。

ケ 講堂映像

以下の3本の映像を講堂で上映している。令和3年度以降通年利用可としているが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、換気時間確保のため利用があった後1時間の利用中止時間を設けて運用した。

① 「新潟県の歴史」

原始から現代にいたる新潟県のあゆみを、CGを交えた映像で紹介。 (上映時間約25分)

② 「ジオラマ縄文人の世界ができるまで」

新潟県立歴史博物館の縄文時代に関わる展示製作がどのように進められたのかをドキュメンタリー風に紹介。 (上映時間約22分)

③ 「奥三面 縄文の暮らし」

新潟県立歴史博物館縄文展示の製作に多くの指針を与えてくれた奥三面遺跡群。遺跡の様子とともに、奥三面に生きる人々の姿、豊かな自然を紹介。 (上映時間約23分)

上記3本の映像は定期上映を行っていたが、平成20年度より申し込み制に変更し、令和2年度は①「新潟県の歴史」56人、②「ジオラマ縄文人の世界ができるまで」37人、③「奥三面 縄文の暮らし」50人、延べ143人の観覧があった。

コ 常設展ワンポイント解説

常設展示室という「場」を活用し、その展示資料をきっかけに、研究員の調査研究活動による専門的知識・最新の情報をわかりやすく公開しながら、来館者との交流や新たな発見を引き出すとともに、来館者のニーズを把握して今後の展示運営に生かすために実施している(毎週土・日曜日の午後1時から)。平成28年度からは、中学生ボランティア活動及びサイノカミ活動重視の博物館としての姿勢を示すため、それぞれの活動日の解説は休止することとした。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施時間を15分以内に制限し、参加者の連絡先の提出を原則としていたが、9月中旬から連絡先の提出を中止した。また11月6日は、担当者

の都合により中止とした。

以上のもと、令和4年度は93回実施した。参加者数は591人（平均6.35人）。

【ゲスト解説】

平成27年度より、常設展示ワンポイント解説において、他館からの学芸員など専門家によるゲスト解説を導入した。これは、利用者の興味をさらに惹く方策としての性格を与えるとともに、他館の学芸員などによる解説で、より多くの専門的知識が公開され利用者の便に資するものである。ただし令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施しなかった。

実施日	担当	場 所		タイトル	人数
4月2日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	年中行事と子どもの主体性	3
4月3日(日)	西田	雪とくらし	入口	くらしの中のやきもの	3
4月9日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	四季耕作図屏風のこと	5
4月10日(日)	橋詰	縄文人の世界	入口	縄文展示で春のいきもの探し	10
4月16日(土)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	ツクシ	6
4月17日(日)	渡部	縄文人の世界	入口	クマとカモシカ	9
4月23日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	川中島合戦陣取略図	10
4月24日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	丸木舟と櫂	3
4月30日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世の新潟	正保越後国絵図	4
5月1日(日)	三国	新潟県のあゆみ	古代の新潟	ヒトガタとニンギョウ	6
5月7日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	もう少し深田のことを知っていきませんか？	6
5月8日(日)	橋詰	新潟県のあゆみ	入口	先史時代のヤリ	10
5月14日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	SPレコードについて	5
5月15日(日)	山本	新潟県のあゆみ	新潟のあけぼの	銅の鏡	11
5月21日(土)	西田	縄文人の世界	入口	石のアクセサリー	3
5月22日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	江戸時代の刷り物文化	4
5月28日(土)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	米づくりの一年	4
5月29日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	木柱	6
6月4日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	田打ちのこと	6
6月5日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	直江状	6
6月11日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	寿々木米若と佐渡情話	9
6月12日(日)	橋詰	新潟県のあゆみ	入口	佐渡の玉づくりの石	12
6月18日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	端午の節句と昔話	3
6月19日(日)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	かぶりもの	11
6月25日(土)	西田	縄文人の世界	入口	狩猟採集民のくらし	5
6月26日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	佐渡で作られた銭	5
7月2日(土)	田邊	米づくり	協力と工夫の米づくり	三瀧水抜工事地主起請文を読む	11
7月3日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	宝石でつくられた石のオノ	12
7月9日(土)	山本	縄文文化を探る	出口	縄文時代に戦争はあったのか？	3
7月10日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	直江兼続と豊光寺承允	2
7月16日(土)	大楽	雪とくらし	雪国のくらし	角巻とおこそ頭巾	8
7月17日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	埋葬	10
7月23日(土)		縄文人の世界	入口	中学生ボランティア	(20)
7月24日(日)		縄文人の世界	入口	中学生ボランティア	(15)
7月30日(土)		縄文人の世界	入口	中学生ボランティア	(12)
7月31日(日)		縄文人の世界	入口	中学生ボランティア	(27)
8月6日(土)		縄文人の世界	入口	中学生ボランティア	(24)
8月7日(日)		縄文人の世界	入口	中学生ボランティア	(31)
8月13日(土)	西田	縄文人の世界	入口	土偶	10
8月14日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	四斤山砲	7
8月20日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	低湿地の米づくり	10
8月21日(日)	宮尾	企画展示室	入口	重要文化財 村尻遺跡出土品展	16
8月27日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	三嶋(みしま)郡について	4
8月28日(土)	橋詰	企画展示室	入口	旧石器時代から縄文時代への移りかわり	14
9月3日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	林明男の民具収集	4
9月4日(日)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	鋏	5
9月10日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	「農耕絵巻」をどう捉えますか？	6
9月11日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	縄文時代の線画	11
9月17日(土)	山本	縄文文化を探る	出口	土器の焼成	4

実施日	担当	場 所		タイトル	人数
9月18日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	中世の新潟	姓と名字について	4
9月24日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	大竹貫一	6
9月25日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉謙信の肖像画	5
10月1日(土)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	佐渡金銀山絵巻	6
10月2日(日)	西田	縄文人の世界	入口	秋のジオラマ	11
10月8日(土)	山本	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	絵巻の構造	5
10月9日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	大河津分水	5
10月15日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	慶長二年越後国郡絵図	10
10月16日(日)	大楽	縄文人の世界	入口	佐渡の海藻	5
10月22日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	藁の呪物で災いを除ける	7
10月23日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	新潟のあけぼの	日本の弓について	1
10月29日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	小千谷縮の製作工程について	6
10月30日(日)	橋詰	縄文人の世界	入口	石器につかわれた石について	8
11月5日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	縄文時代の装身具	8
11月6日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世の新潟	「小藩分立」以前の越後国	中止
11月12日(土)	田邊	企画展示室	入口	第一次大河津分水工事	5
11月13日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	揚北衆について	4
11月19日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	地苧と外来苧について	4
11月20日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	ヒスイはなぜ糸魚川にあるのか?	8
11月26日(土)	西田	新潟県のあゆみ	新潟のあけぼの	弥生時代の玉作	6
11月27日(日)	三国	新潟県のあゆみ	中世の新潟	中野堂任の「色部氏年中行事」研究	8
12月3日(土)	山本	縄文文化を探る	出口	糸魚川ヒスイとミャンマーヒスイ	6
12月4日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	海外での先史時代のヒスイ利用	7
12月10日(土)	浅井	縄文文化を探る	出口	邪馬台国とヒスイ	7
12月11日(日)	田邊	企画展示室	入口	第二次大河津分水工事	3
12月17日(土)	渡部	企画展示室	入口	江戸時代の蒲原郡絵図	4
12月18日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	三浦和田氏について	2
12月24日(土)	西田	新潟県のあゆみ	新潟のあけぼの	縄文土器のかたち	3
12月25日(日)	宮尾	企画展示室	入口	分水工事と遺跡	5
1月7日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	上布・縮の仕上げ	7
1月8日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉謙信と家臣	9
1月14日(土)	田邊	企画展示室	入口	信濃川補修工事	8
1月15日(日)				サイノカミのため休止	
1月21日(土)	浅井	米づくり	協力と工夫の米づくり	古代の境界祭祀について	3
1月22日(日)	大楽	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	カンテラとカーバイト	6
1月28日(土)	橋詰	縄文文化を探る	出口	ヒスイの県の石指定記念展示の解説	6
1月29日(日)	宮尾	縄文人の世界	入口	冬の縄文人	5
2月4日(土)	西田	縄文人の世界	入口	シカ狩り	4
2月5日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	ヒスイが利用されるまで	5
2月11日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	古代・中世の文化・交流	佐渡の能面	6
2月12日(日)	山本	縄文文化を探る	出口	「縄文土器」という言葉	6
2月18日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	縄文土器の文様	6
2月19日(日)	三国	新潟県のあゆみ	中世の新潟	正月の食	5
2月25日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	越後縮の緋について	5
2月26日(土)	大楽	雪とくらし	2階	除雪用具	5
3月4日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	土器に書かれた人名	4
3月5日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	信州川中島合戦記	8
3月11日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世の新潟	高田城下絵図	5
3月12日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	十二講	4
3月18日(土)	渡部	雪とくらし	入口	高田の雁木通り	7
3月19日(日)				ヒスイリレー講演会のため休止	
3月25日(土)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	人形送りと除災	5
3月26日(日)	橋詰	縄文人の世界	入口	旧石器から縄文時代の狩りの変化	11

(2) 企画展示

ア 事業趣旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するために、研究員による調査研究活動に基づく成果等をあらわす企画展を開催している。また、リピーターを含め多数の人々に来館してもらうため、魅力ある展覧会等を積極的、継続的に開催している。

イ 主催事業

主催事業には、当館の企画による自主企画、他機関と共同で企画し主催する共同企画、及び他機関が企画する巡回企画がある。令和4年度は以下のとおり行った。

① 春季企画展 「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」 巡回企画

会 期：4月23日(土)～6月5日(日) 39日間

主 催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、NST新潟総合テレビ

特別協力：ポーラ文化研究所

観覧者数：5,509人

内 容：江戸時代の女性のよそおいは身分や職業、年齢によってさまざまなルールがあった。その様子は浮世絵に見ることができることから、本展ではポーラ文化研究所所蔵の浮世絵や化粧道具を通じ、女性たちが制約の中でよそおうことを楽しんでいたことを感じてもらう展覧会とした。

関連事業：講演会 「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」

講師：渡辺美知代氏（ポーラ文化研究所学芸員）

日時：5月22日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：69人

備考：オンラインの画面上映による開催。



② 秋季企画展 「生業絵巻尽一ひらけ！江戸の産業図鑑一」 自主企画

会 期：9月17日(土)～10月30日(日) 38日間

主 催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、NST新潟総合テレビ

観覧者数：3,329人

内 容：江戸時代の安定した社会の中で発展した各種の産業を題材にした絵巻（農業、鉱業、捕鯨、

製紙業、茶業、織業に関するものなど)を展覧し、江戸時代の産業や絵巻文化の一端を紹介。新潟県が誇る佐渡金銀山絵巻も数多く取り上げ、世界遺産登録を目指す「佐渡島の金山」の価値を示す重要な資料となっていることも紹介した。

関連事業：講演会 「江戸時代のモノづくりと産業絵図～鉱山を中心に～」

講師：鈴木一義氏（前国立科学博物館産業技術史資料情報センター長）

日時：10月9日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：41人

講座「新潟県の産業絵巻」

講師：渡部浩二（当館専門研究員）

日時：10月22日(土) 13:30～15:00

会場：研修室

参加者数：21人



ウ テーマ展示

令和元年度より、「拡大常設展」という位置づけによって企画展示室を活用した展覧会活動を行っている。令和4年度は以下の2件実施。

① 夏季テーマ展示「重要文化財村尻遺跡出土品」

会 期：7月16日(土)～8月28日(日) 39日間

期間中常設展示総観覧者数：5,056人

内 容：新潟県新発田市の村尻遺跡では、弥生時代の集団墓地が昭和55・56年（1980・1981）に発掘され、平成25年（2013）には、遺骨を土器におさめ再葬したと考えられる墓穴から発掘された出土品が重要文化財に指定された。本テーマ展示は、弥生時代の葬送儀礼を考えるうえで、極めて重要な資料であり学術的価値が高い重要文化財の村尻遺跡出土品を一堂に展示した。

関連事業：講 座「旧石器時代から縄文時代への移りかわり」

講師：橋詰 潤（当館主任研究員）

日時：7月30日(土) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：33人

夏休みスペシャルイベント「ミッション中!!」

期日：7月16日(土)～8月28日(日)

会場：常設展示室・企画展示室

参加者数：：1,058人(コンプリート数=記念品数)



② 冬季テーマ展示「大河津分水と信濃川の治水」

会 期：11月12日(土)～1月15日(日) 49日間

期間中常設展示総観覧者数：4,283人

内 容：100年前の大正11(1922)年、大河津分水の通水が開始された。長い間、信濃川の洪水に悩まされてきた信濃川中下流域の人びとにとって、信濃川の根本的な治水策である大河津分水の実現は江戸時代以来の悲願だった。大河津分水は洪水を防ぐという地域の熱意だけでなく、近代国家日本の中での新潟県の位置づけの変化によって実現された。当覧覧会では大河津分水実現の請願から、着工、工事の様子、完成、その成果について紹介した。

関連事業：講 座 「高橋竹之介の大河津分水構想」

講師：田邊 幹(当館専門研究員)

日時：11月26日(土) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：73人



エ 移動展覧会

移動展覧会は、館外にて当館の館蔵資料等を公開すべく開催先等とともに企画するもの。令和4年度は以下の展覧会を行った。

① アカデミック・インターンシップ研修成果展「輪—光が包む人と自然—」

会 期：11月17日(木)～11月25日(金)

主 催：新潟県立歴史博物館

会 場：新潟県立三条高等学校

内 容：新潟県教育委員会の主催事業「高校生アカデミック・インターンシップ研修」として、3人の高校生が参加。長野県出身の画家、原田泰治氏のピエゾグラフ（高精細複製画）をもとに展示内容の企画・製作したその成果を、研修生の通学校でも公開。



三条高等学校での展示の様子

オ 共催事業

他機関が主催する展覧会に当館が共催するものである。令和4年度は以下のとおり行った。

① 火焰街道 2022 夏

会 期：7月16日(土)～8月28日(日) 39日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：信濃川火焰街道連携協議会

期間中常設展示総観覧者数：5,056人

内 容：信濃川火焰街道連携協議会（新潟市、三条市、長岡市、魚沼市、十日町市、津南町）は、文化財を通じた地域振興と広域観光を推進している。その活動の一環として、日本遺産「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」から火焰型土器など、器（うつわ）ばなれした造形のやきものを厳選して紹介した。



② 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「第19回マイ・コレクション・ワールド」

会 期：2月4日(土)～3月21日(火・祝) 39日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：2,319人

内 容：市民コレクターからそのコレクションを出品していただき、広くコレクションという世界をご覧いただく展覧会。歴史などの題材による創作活動の成果も展覧。

【出品内容】タイトル50音順

- ・開高健が愛した釣り道具
- ・鬼滅の刃コレクション その2
- ・クリアファイルコレクション
- ・交通券あれこれ パート3
- ・古写真に見る戦前長岡大花火の歴史
- ・全国ご当地カレー
- ・測量と算術と地図と(直江津出身の和算家 小林百咄に関するコレクション)
- ・台所で博物館
- ・長岡土器造り同好会作品
- ・能面
- ・プラネタリウム100周年!
- ・模様迷路を楽しむ
- ・わたしの考古学コレクション



③ kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展

会 期：2月4日(土)～2月26日(日) 20日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：kid's 考古学研究所

共 催：NPO 法人むきばんだ応援団

観覧者数：1,164人

内 容：WEBサイト【全国子ども考古学教室】の実施する「kid's考古学新聞コンクール」の入賞作品を展覧。

2022年度の第3回入賞作品に加え、2021年度の第2回入賞作品も併せて展覧。新潟県内からは、第3回のチャレンジの部・優秀賞(ミスうま高新聞)、第2回のチャレンジの部・宝物みつけたで賞(かえんどきしんぶん)が展示された。



④ 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「原田泰治さん追悼展」

会 期：2月28日(火)～3月21日(火・祝) 19日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：1,155人

内 容：令和4年3月2日に逝去された原田泰治さんを偲び、新潟県に寄贈された原田泰治作品のピエゾグラフ（高精細複製画）14点全点を展示した。



⑤ 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「10年間ふるさとなみえ博物館」

会 期：2月28日(火)～3月21日(火・祝) 19日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：1,155人

内 容：福島県浪江町の小学生たちが、東日本大震災の避難先の二本松市で積み重ねてきた地域学習「ふるさとなみえ科」の10年間の成果をまとめた展覧会。避難先で再開した浪江小学校と津島小学校の児童たちがまとめた成果を両校の閉校直前に津島小で公開された。その成果である「10年間ふるさとなみえ博物館」を、当館でも開催することで、震災のことを改めて考え、復興や地域（ふるさと）というものを考えるきっかけとした。



(3) 収集保管事業

ア 寄贈資料

寄 贈 者	件数	分野	資 料 名	点数
二村 洋一郎	1	歴史	土管	1
		歴史	醤油甕	1
		歴史	壺	1
		歴史	注口付壺	1
		歴史	甕	1
		歴史	蓋付甕	4
		歴史	尿瓶	1
		歴史	鍋蓋	1
佐藤 延由	1	民俗	絵馬の版木	1
		民俗	昭和17年のロール式糊摺機貸出記録	1
胎内市中村浜区自治会	1	民俗	灯籠	5
		民俗	七夕飾り	2
		民俗	太鼓	2
原 正	1	民俗	大工道具・刃物見本 一式	1
青木 恒雄	1	歴史	越後國全景 明治9年出版(小林清親作)	1
磯西 正伸	1	歴史	『日本節用万歳蔵』	1
長谷川 浩一	1	民俗	巻尺(献血記念品)	1
		民俗	物差し	1
		民俗	縮台の付属部品	1
丸山 三枝	1	歴史	故丸山三郎海軍関係資料 海軍日記	3
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 満州国皇帝陛下御来訪記念写真帳	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 アルバム	2
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 連合艦隊旗艦金剛記念	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 軍艦長門 記念写真帳	2
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 連合艦隊旗艦山城記念	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 海軍砲術学校第74期普通科 卒業記念写真帳	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 海軍検定褒章 盾	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 海軍兵曹長丸山三郎 肖像写真	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 特別大演習観艦式会場図	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 トランク	1
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 その他写真	91
		歴史	故丸山三郎海軍関係資料 休暇心得断簡	1
伊藤 ちよ	1	歴史	故黒川憲関係資料	151
合 計	10			287

イ 寄託資料

寄 託 者	件数	分野	資 料 名	点数
小林 七郎右衛門	1	歴史	毛抜き	8
合 計	1			8

ウ 購入資料

資 料 名	点数
上杉謙信像	1
日蓮上人御一代記	1
法華諸国霊場記	1
日蓮大士真実伝	1
越後上杉氏 鷹書	1

エ 資料貸出

貸出先	件数	資料名	点数	目的
十日町市博物館	1	壬遺跡土器、石器（星野コレクション）	62	令和4年度秋季特別展「縄文時代の始まりを探る」（仮）に展示するため
長岡市立科学博物館	1	矢津遺跡出土資料（落合清コレクション）	6	馬高縄文館秋季特別展「藤橋遺跡と縄文晩期の土器文化」に展示するため
新発田市教育委員会	1	村尻遺跡出土土偶形容器レプリカ	1	新発田市加治川展示室において展示するため
米沢市上杉博物館	1	「越後文書宝翰集」毛利安田氏文書巻4、大見安田氏文書	2	特別展「上杉景勝と関ヶ原合戦」（仮）に展示及び印刷物等へ掲載するため
合計	4		71	

オ 資料特別利用

利用者名	件数	資料名	点数	目的
本田秀生	1	テゴ、籠類	122	調査研究のため
本田秀生	1	テゴ、籠類	28	調査研究のため
本田秀生	1	テゴ、籠類	84	調査研究のため
橋詰麻央	1	常設展示 縄文人の世界 秋の広場復元家屋内土偶（模造品）	1	Kid's 考古学新聞に掲載のため
(株) 戎光祥出版	1	長尾為景感状ほか	7	『長尾為景』（シリーズ・中世関東武士の研究 34）に掲載のため
(株) 悠工房	1	常設展示 縄文人の世界 冬の狩り写真	1	『東進オンライン学校 小学部 社会 5年23回』に掲載のため
米沢市上杉博物館	1	越後文書宝翰集「毛利安田氏文書」第4巻、同「大見安田氏文書」	2	令和5年度特別展にむけた調査のため
飛騨市教育委員会事務局文化振興課	1	イッポンゾリ	3	『飛騨市歴史文化調査室報 第5集』に掲載のため
(株) 本作り空 Sola	1	祈禱真言のお札ほか	6	『世界の魔よけ凶鑑』に掲載のため
渡辺正範	1	上野家成譲状ほか	5	節黒城開山祭 50周年記念誌に掲載のため
(株) かみゆ	1	上杉政虎感状 色部勝長宛	1	『流れがわかる戦国史（仮）』に掲載のため
(株) 山川出版社	1	越後国荒川保与奥山荘園図	1	『もういちど読みとおす 山川新しい日本史』に掲載のため
奥野 航	1	佐州全図	1	『あるかんか佐渡しま歩きガイドブック』に掲載のため
余湖明彦	1	「佐州金銀山之図」3巻（西三川砂金山稼方図）	1	「いいがた市民大学」講演時の配布資料およびパワーポイントに掲載のため
(株) コミュニティネット	1	上杉謙信画像、直江状画像	2	『2023年版戦国武将大全カレンダー（仮称）』『2023年版戦国手帳』その他に掲載のため
(株) コミュニティネット	1	上杉謙信画像、直江状画像	2	日本の歴史 とく問カード『信長録（仮称）』その他に掲載のため
長野県立歴史館	1	松原諏訪上下二座の梵鐘	1	長野県立歴史館夏季企画展「山伏 佐久の修験 大井法華堂の世界」の展示パネルに画像を掲載するため
越前市教育委員会	1	大谷吉継書状、豊臣秀吉出羽国検地掟書案	2	『越前市史』資料編3 中世二への翻刻掲載のため
新潟県広報広聴課	1	「越後国奥山荘与荒川保塚相論和与絵図」「上杉謙信像」「越後文書宝翰集」	3	「新潟県のすがた 2023 概要」に掲載のため
学校法人 河合塾	1	北越雪譜	1	2023年度「日本支社新資料集」に掲載のため
鉢形城歴史館	1	藤田信吉書状	1	『鉢形領内に遺された戦国史料集第四集 児玉郡』（予定）刊行のため
(株) かみゆ	1	常設展示 縄文人の世界ほか 画像	16	JTBMOOK『るるぶ縄文』掲載のため
(株) かみゆ	1	直江状写	1	制作書籍への掲載のため
燕市分水良寛資料館	1	農耕絵巻 画像	1	「良寛の生きた時代と大河津分水つなぐ良寛のこころ」展、展示パネル等で使用のため

遠藤純夏	1	柴澤コレクション 松郷屋焼	40	卒業論文制作のため
しまだひでや陶芸教室	1	長岡市山下遺跡ほか出土縄文土器破片	100	焼成状況観察のため
(株) 桜映画社	1	常設展示「縄文人の世界」「縄文文化を探る」画像	1	NHK「美の壺～縄文の美(仮題)」制作のため
(株) ABC アーク歴史人編集部	1	直江状	1	『歴史人』10月号「武将勢力変遷図 東北編」掲載のため
米沢市上杉博物館	1	鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足	1	『上杉家伝来写真』展図録および展示パネルに掲載のため
山梨県立美術館	1	木田コレクション 晩期注口土器	1	「縄文-JOMON-展」でのパネル展示、図録、広報材等に掲載
武蔵村山市教育委員会	1	光り物 刷物	1	特別展「流行り病と武蔵村山」のため
(株) 戎光祥出版	1	長尾為景書状ほか	7	『長尾為景』(シリーズ・中世関東武士の研究 34)に上記画像を掲載するため
(株) ディラナダチ	1	直江状写	1	歴史人 2022.11月号特集「ここまで変わった日本の歴史」の挿絵に使用するため
(株) かみゆ	1	鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足	1	「激突バトル!最強戦国武将大図鑑」(仮)掲載のため
合同会社 カラボックス	1	上杉政虎書状	1	BS11「偉人 素顔の履歴書」#54 武田信繁編の番組制作のため
(株) 日企	1	常設展示「縄文人の世界 夏の海」画像	1	日本テレビ「ザ!鉄腕!DASH!!」番組制作のため
佐渡博物館	1	常設展示「縄文人の世界」画像、「縄文文化を探る」グラフィックパネル	5	『佐渡に人が住みはじめたころ～縄文と弥生～』展で使用するため
NHK 大阪放送局	1	(慶長5年)6月10日付上杉景勝書状	1	NHK「歴史探偵」北の関が原(仮)で放映するため
三武英行	1	「五智焼」ミルクポット		内島北朗の師匠六世尾形乾山関係『蓮の実』(増訂版英語付)に掲載するため
会田進	1	星野コレクション	252	研究のため
(株) 柏書房	1	出土地不明土偶	2	『土偶大事典(仮題)』掲載のため
会田進	1	星野コレクション HY32 壬遺跡採集土器	2	研究のため(土器種実圧痕レプリカの採取)
名古屋大学博物館	1	常設展示 ヒスイの大珠をつける縄文人画像	1	「出張!名大博物館」で紹介する標本資料「ヒスイ」の歴史的文化的利用の一例として解説のため
杉 文乃	1	常設展示 縄文人の世界 画像	2	WEBサイトにて土器の販売をするため
CCC メディアハウス Pen 編集部	1	(永禄4年)9月13日付上杉政虎感状	1	雑誌 Pen12/28 発売号「戦国武将特集」掲載のため
(株) 山川出版社	1	日蓮聖人曼荼羅本尊	1	五味文彦『順徳院と日蓮の佐渡』(仮)への掲載のため
後藤一雄	1	少女遊戯双六ほか	9	絵双六の探求(史料として活用の可能性を探る)のため
(株) BS テレビ東京	1	正保越後国絵図 (新発田市歴史図書館所蔵資料) 画像	1	BS テレビ東京日経ニュースプラス9 「偉人たちの財務戦略」で上杉謙信公の資料として番組内で上記画像を放映するため
(株) ABC アーク歴史人編集部	1	血染感状(永禄4年9月13日付上杉政虎感状)画像	1	雑誌『歴史人』増刊号「戦国は関東からはじまった! 関東戦国史のすべて」(仮題)に挿図として掲載するため
長岡市立科学博物館	1	山下遺跡出土縄文土器(深鉢) 神林昭一コレクション管理番号52	1	火炎土器研究のため
新潟県埋蔵文化財調査事業団	1	威奈大村骨蔵器(レプリカ及び写真データ)	1	「発掘された名前」展の展示及びチラシ・ポスター・パンフレット等に掲載するため
合計	51		730	

カ 資料保管環境

① 生物調査

館内での文化財害虫の生息、館内への侵入状況を調べるため、館内各所に粘着トラップを 250 箇所、フェロモントラップを計 17 箇所（タバコシバンムシ用「ニューセリコ」10 箇所、ジンサンシバンムシ用「パシニウム」3 箇所、ヒメマルカツオブシムシ用「ヒメマルカツオブシムシルアー」3 箇所、ノシメマダラメイガ用「ガチョン」1 箇所）、ライトトラップを 5 箇所設置し、毎月調査を行った。通年での調査結果は下記の通りである。

発見月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
昆虫目	シミ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ゴキブリ目	0	1	1	2	3	3	6	3	0	0	0	0	19
	シロアリ目	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	バッタ目	4	11	4	4	21	61	134	41	174	27	1	0	482
	チャタテムシ目	9	11	0	0	90	13	60	7	67	1428	11	71	1767
	甲虫目 カツオブシムシ	1	0	0	0	0	9	11	6	4	0	0	0	31
	甲虫目 キクイムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲虫目 ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲虫目 シバンムシ	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
	甲虫目 その他	3	17	21	35	12	4	16	12	22	2	1	0	145
	ハチ目	0	2	31	30	9	6	4	4	4	0	0	0	90
	ハエ目 ユスリカ・蚊等	50	81	33	201	52	43	38	7	41	6	14	17	583
	ハエ目 コバエ等	6	50	17	25	18	64	17	6	91	3	13	7	317
	チョウ目	0	6	0	3	10	31	17	5	13	0	0	1	86
昆虫網その他	12	0	15	6	1	3	1	1	0	2	1	15	57	
唇脚網	オオムカデ目	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ゲジ目	2	12	15	14	13	10	11	21	22	8	6	2	136
	唇脚網その他	0	0	0	2	0	0	0	0	2	5	0	1	10
蜘蛛型網	クモ目	70	55	57	41	15	10	10	18	23	33	17	47	396
	ダニ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クモ型網その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ほか	その他ダンゴムシなど	0	0	0	12	2	1	0	0	0	0	0	0	15
		157	246	205	375	246	259	328	131	463	1514	64	161	4149

令和4年度の調査結果を下記のとおり総括する。

通年捕獲実績の害虫種別に見ると、文化財加害害虫としては、(1) チャタテムシ目、(2) コウチュウ目カツオブシムシ、(3) ゴキブリ目、(4) シロアリ目が主要種としてあげられる。その他の不快害虫としては、(1) ハエ目、(2) バッタ目(カマドウマ・コオロギ)、(3) クモ目、(4) ゲジ目が主要種としてあげられる。捕獲数で最も多いグループは、バッタ目であった。

本年度は昨年度に比べ総数で約2倍の捕獲数となった。これは収蔵庫2で1488匹捕獲されたチャタテムシの影響が大きい。その内1427匹は11月回収の粘着トラップで捕獲されている。チャタテムシ発生の原因として、収蔵庫2に設置されている除湿器がもっとも湿度の高い6月～9月にかけて故障していたことをあげることができる。新たな除湿器の設置まで、職員により可搬型除湿器の設置、収蔵庫への扇風機設置による内部空気の循環などの対応をおこなったが、庫内環境の悪化がチャタテムシ発生につながった可能性がある。11月以降、捕獲トラップ付近の状況確認、清掃、殺虫剤の散布、追加トラップの設置によるモニタリングの強化などを行っている。12月以降のチャタテムシの捕獲数は急激に減少しており、文化財への影響も確認されていない。今後も経過を観察し、状況に応じ適切に対応する予定である。また、チャタテムシの好むカビの発生は、空中浮遊菌、床付着菌調査の結果、確認されなかった(②-1、②-2参照)。

カツオブシムシについては、出入り口付近などで捕獲され、日常の目視点検においては成虫が主に出入り口付近の窓の下で発見されている。ただし、いずれも外部からの影響を受けやすい場所における発見であり、成虫出現時期にほぼ限定され、外部からの侵入と考えられる。目視点検で発見される度、閉館後に殺虫剤の散布を行った。

ゴキブリ目については、出入り口付近などで捕獲されており、施設や文化財への影響は確認されなかった。

シロアリ目については、有翅虫発生時期に屋外で発生した有翅虫が出入り口周辺に侵入している状況であり、施設や文化財への影響はなかった。

バッタ目については、主にカマドウマであり、例年秋・冬の寒冷時期に越冬のために館内に侵入し、捕獲が増加する季節性の害虫であった。そのため、それらの害虫駆除を主な目的として、12月末に館内殺虫作業を行った。

ゲジ目・ハエ目・ハチ目（オオクロアリ・ヒメアリなど）・クモ目・その他（ダンゴムシ、ゴミムシなど）は、捕獲されるポイントが出入り口周辺にほぼ限定されていて、大きな問題とはならなかった。

なお、ノシメマダラメイガについては、令和1年度頃まで常設展示室内で成虫が捕獲されるなどしてきたため、文化財に影響を与えうる害虫としてフェロモントラップを用いたモニタリングを継続している。結果として、昨年度に続き本年度も館内での捕獲は確認されなかった。

② 空中浮遊菌（真菌）調査・付着菌調査

②-1 空中浮遊菌調査

特別収蔵庫及び収蔵庫2・3の空中浮遊菌（真菌）を調査するため、ピンホールサンプラーで各室内空気を200L吸引し、PDA培地・M40Y培地で培養して真菌数を調査した。M40Y培地は乾燥を好むカビに適した培地である。PDA培地・M40Y培地ともに、5月・8月・12月の調査において特別収蔵庫前室の菌数がやや多かった。いずれも扉の開閉時に廊下から空気が流入したためと考えられ、季節傾向の影響がうかがわれる。

②-2 付着菌調査

特別収蔵庫および収蔵庫2・3の付着菌を調査するため、100cm²の床面を綿棒で拭き取り、それをPDA培地・M40Y培地で培養して真菌数を調査した。PDA培地・M40Y培地ともに、特別収蔵庫および収蔵庫2・3のいずれにおいても確認されないか、発見されても極わずかな菌数であった。季節による大きな変動も確認されなかった。

以上のように、特別収蔵庫前室の空中浮遊菌調査の結果以外は、年間を通じて少ない菌数である。また、付着菌の調査結果を見る限り、収蔵庫2においても浮遊菌が落下し床に定着するような状況にはないと推定できる。こうした点から比較的良好な収蔵環境が維持されていると言える。調査結果は下記の通りである。

令和4年度 空中浮遊菌（真菌）調査・付着菌調査結果

PDA培地

測定箇所	5月9日		8月8日		12月12日	
	200L吸引培地	1m ³ あたりの真菌数	200L吸引培地	1m ³ あたりの真菌数	200L吸引培地	1m ³ あたりの真菌数
特別収蔵庫前室	5	25	3	15	7	35
特別収蔵庫	0	0	0	0	0	0
収蔵庫2	5	25	1	5	1	5
収蔵庫3	0	0	6	30	0	0

M40Y 培地

測定箇所	5月9日		8月8日		12月12日	
	200L 吸引培地	1 m ³ あたりの真菌数	200L 吸引培地	1 m ³ あたりの真菌数	200L 吸引培地	1 m ³ あたりの真菌数
特別収蔵庫前室	8	40	5	25	6	30
特別収蔵庫	0	0	0	0	0	0
収蔵庫 2	0	0	0	0	0	0
収蔵庫 3	0	0	1	5	1	5

付着菌

採取箇所	5月9日		8月8日		12月12日	
	PDA培地	M40Y培地	PDA培地	M40Y培地	PDA培地	M40Y培地
特別収蔵庫前室	1	2	0	0	0	1
特別収蔵庫	0	0	0	0	0	1
収蔵庫 2 (1階右側)	0	2	0	0	0	0
収蔵庫 2 (1階左側)	0	0	0	0	0	0
収蔵庫 2 (2階)	0	1	0	0	0	0

③ 薬剤使用状況、館内殺虫、資料殺虫殺菌処理状況

館内及び資料から文化財害虫・菌を除去するため、以下のとおり館内殺虫および資料の殺虫殺菌処理を行った。

処理作業名	作業日	使用薬剤等	目的等
燻蒸室内燻蒸処理	4月11～14日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤 (エキヒュームS)	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
展示室殺虫作業	6月13日	ピレスロイド炭酸製剤 (ブンガノン)	展示室の什器・備品・環境復元展示の殺虫のため
燻蒸室内燻蒸処理	7月11～13日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤 (エキヒュームS)	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
燻蒸室内燻蒸処理	10月11～14日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤 (エキヒュームS)	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
館内殺虫作業	12月29日	ピレスロイド炭酸製剤 (ミラクンGX)	共用部の什器・備品の殺虫のため

④ 温湿度管理

館内の収蔵庫および企画展示室の温湿度について、各室の収蔵品や使用目的にあわせ、適正になるように努めた。とりわけ特別収蔵庫は年間を通して温度 21～23 度前後に制御し、湿度は 60%になるように留意した。企画展示室は、調湿剤を使用しながら展示資料によって適正な設定温湿度を調整した。

⑤ 館内の空気環境管理

a イオンクロマトグラフ法空気環境測定

8月18日に収蔵庫1・収蔵庫2のイオンクロマトグラフ法(IC法)による測定分析を行った。その結果、文化財に影響を与える酢酸、ギ酸、アンモニウムのイオン成分は問題なかった。収蔵庫2については、令和2年度までの調査では、ギ酸が東京文化財研究所の推奨値をわずかに越えていることが判明していた。しかし、昨年度に続き本年度の調査でも推奨値より低い数値であることが確認された。今後も経過を観察し、状況に応じ適切に対応する予定である。

令和4年度 イオンクロマトグラフ測定結果一覧（8月18日）

測定箇所	酢酸 ppb	ギ酸 ppb	アンモニア ppb
特別収蔵庫 1階中央	31.4	6.17	9.61
特別収蔵庫 1階左奥	29.6	5.74	9.19
特別収蔵庫 1階吸込口	36.6	7.07	9.87
特別収蔵庫 2階吹出口	28.2	5.39	9.2
収蔵庫 2	54.3	9.71	19.30

b 活性炭フィルター交換

特別収蔵庫、収蔵庫 2、収蔵庫 3および企画展示室の適切な空気環境を維持するため、7月に活性炭フィルターを交換した。

(4) 調査研究事業

ア 事業主旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するため、全国的・世界的視野から総合的に、資料に関する技術的及び専門的な研究を行っている。

なお、本事業は他事業と関連し、博物館事業全体を支えるものである。他事業に結実した成果は各項目を参照していただきたい。

イ 総合研究

博物館の事業活動に寄与するため、博物館内外の人材を集め、総合的な研究目的を掲げて行う研究である。令和4年度には、以下のとおり行った。

① 越後文書宝翰集の研究（3年計画の2年目）

代表者：前嶋 敏

新潟県の中世史を研究する上においてきわめて重要な資料である当館所蔵の国指定重要文化財「越後文書宝翰集」全44巻727通のうち、三浦和田氏文書・河村氏文書・小田切氏文書の刊行を目指して、史料の見直しを行う。

当該年度は3年計画の2年目にあたり、『越後文書宝翰集 築地氏文書』（矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編）を刊行した。

② 近世産業絵巻の研究（3年計画の3年目）

代表者：渡部浩二

近世以降に新たに誕生した「産業絵巻」（農耕、林業、捕鯨・水産、鉱山などの産業に関する一連の工程を描いた絵巻）の所在と概要を把握するとともに、制作の意図や受容者、社会背景などを明らかにし、それらを日本の絵巻文化史全体のなかに位置付ける。

本年度は産業絵巻成立事情を探り、近世の産業そのものに対する関心の高まる時期と、それに付随して制作された書物や絵画などに関する調査を行い、絵巻資料論の検討を進めた。なお、本研究の研究成果の一部は、令和4年度秋季企画展に反映された。

ウ 個別研究

専門的業務に従事する研究員が日常的に研鑽を積み、また、博物館の事業活動に寄与するため、個別の研究目的を掲げて行う研究である。令和4年度には、各自の日常的な研鑽・調査とともに、以下のテーマ研究を行った。

① 新潟県域近世近代窯業址の研究（西田泰民）

近世近代の県内窯業について、かつて石川秀雄氏が著作にまとめたが、その後続く研究はない。また民芸運動の影響で複数のコレクターの収集品は世代交代で散逸する危機にある。産業史として短期間ながらも勃興した新潟県内の窯業研究は重要でありながら、窯所在地すら不明となっている。前年度に続き、現地踏査を行い、窯業址の比定を進めた。あわせて館蔵品及び比定地採集品について蛍光X線分析を行い、各窯製品の元素組成を検討した。

② 初期城柵官衙遺跡の比較検討（浅井勝利）

陸奥と越後出羽の初期城柵官衙に関する今泉隆雄の提唱した「双子の城柵」論を検証し、『日本書紀』等により知られる日本海側の淳足・磐舟柵の実態について所在地の発見にかかる検討を行った。7世紀の初期城柵のみならず、その後の城柵官衙について、陸奥（太平洋側）と越後出羽（日本海側）とで異なった発展形態をもたらした可能性を探った。

③ 博物館における「障害者」—表象、理解、利用—（山本哲也）

「博物館と障害者」という視点に基づいた研究では、障害者の博物館利用が重視されてきたが、博物館の社会的包摂性を考慮するにあたり、「障害者」の表象そのものを検討する重要性を提示した。その実践的活動のひとつとして令和4年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域と共働した博物館創造活動支援事業)を得て、「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業(実行委員会中核館＝新潟県立歴史博物館)を実施した。

④ 考古資料展示の社会的影響に関する研究（宮尾 亨）

現代社会の中で考古資料が用いられる場面を検討するために、考古学研究以外の場面で用いられる考古資料に関するデータベース構築を行っている。そのデータベース更新を進めるとともに、個別事例の中でも展示の効用について検討した。考古資料によって説明される歴史的事象とともに、現代社会に与える影響について検討した。

⑤ 布関係資料のアーカイブと活用に関する研究（1）（陳 玲）

当館収蔵の山崎コレクションの調査研究から得た視点と方法を用いて、県内市町村の資料館・博物館の布関係の資料群のデータベース化を進め、県全体及び隣県の広がりの中なかで全容を把握し、当該地域の特色を検討した。本年度は下越地域を中心に調査を進めた。

⑥ 佐渡金銀山の鉱山用語の研究（1）（渡部浩二）

前近代の鉱山用語は「山ことば」とも言われ、特殊で難解なものが多く、用語解説書の作成が課題となっている。そこで、佐渡金銀山の鉱山技術書群に豊富に記される鉱山用語の集成を進めている。本年度は採鉱関係の用語を中心として集成、解説の仕方を検討した。

⑦ 築地氏文書の研究（前嶋 敏）

新潟県中世史研究の深化を推し進めるために、当館所蔵の国指定重要文化財「越後文書宝翰集」（全44巻、727通、国指定重要文化財）は、越後地域に盤踞した18の武将の家に伝来した一大古文書群である。そのなかで築地氏文書（3巻54通）を主な検討対象とする。これらの古文書の検討を行い、「三浦和田氏文書」等との比較検討を行った。

⑧ 弥彦神社所蔵資料にみる長善館ネットワークと大河津分水（田邊 幹）

弥彦神社所蔵資料を通して、地域指導者や知識人を輩出した私塾長善館ネットワークを検討し、大河津分水工事との関りを明らかにした。本研究課題の成果の一部は令和4年度冬季テーマ展示に反映された。

⑨ 盆行事・葬送における先駆植物等の利用（三国信一）

元来、植物の霊性については、常緑や大樹、または食用という要素に起因すると説明されがちであった。しかし、先駆樹木の研究により、先駆けて芽を出し急生長するような生態にも霊性が認識されてきた。そのような認識のもと、盆行事・葬送における植物の利用傾向について調査を行い、新潟県域内の地域性をより詳細に明らかにした。

⑩ 先史時代における岩石資源利用の研究（1）（橋詰 潤）

地域の歴史や文化にかかる文化と、地学的成り立ちや自然とを総合し、地域それぞれの「地球でここだけの特別な物語」構築を目指して、先史時代における岩石資源利用の実態調査を行った。

⑪ 食をめぐる文化財保護と観光（大楽和正）

食文化振興の取り組みや保存活動の動向を整理し、郷土料理を活用した観光施策等との関係性を明らかにするとともに、文化財保護との整合性を検討した。

エ 科学研究費補助金等による研究

研究者それぞれの自由かつ柔軟な発想に基づく学術研究を、科学研究費補助金（以下、科研費と記す）等を得て公務として行っている。令和4年度に採択された研究課題は、以下のとおりである。

① 近世産業絵巻の基礎的研究

科研費 基盤研究 C1(19K00969) 平成 31-34 年度（令和元-4 年度）令和 5 年度まで延長
研究代表者：渡部浩二

② 佐渡金銀山技術書群の分析に基づく鉱山資料の集成と鉱山社会史の解明

科研費 基盤研究 C1(22K00886) 令和 4 - 7 年度
研究代表者：渡部浩二

③ 史資料原本調査を中心とした中世文書群の伝来に関する研究

科研費 基盤研究 C1(20K00953) 令和 2-5 年度
研究代表者：前嶋 敏

④ 「越佐徴古館」構想の復元を通じた「横田切れ」水害被災地の復興

科研費 基盤研究 C1 (20K01133) 令和 2-5 年度
研究代表者：田邊 幹

⑤ 本州中央部の大規模遺跡の再検証に基づく更新世終末の動物資源利用行動の評価

科研費 基盤研究 C (20K01101) 令和 2-5 年度
研究代表者：橋詰 潤

⑥ 博物館から考える民俗学の実践的応用

科研費 基盤研究 C1(18K01206) 平成 30-34 年度（平成 30 - 令和 4 年度）
研究代表者：大楽和正

⑦ 土器制作技術と植物混和材

科研費 学術変革 A (20H05812) 令和 2-6 年度
研究分担者：西田泰民
(研究代表者：阿部昭典 千葉大学大学院人文科学研究院 准教授)

⑧ 越後縄文人の食性変化と多雪化の関係を明らかにする研究

科研費 基盤研究 B1 (20H01344) 令和 2-5 年度
研究分担者：宮尾 亨
(研究代表者：吉田邦夫 東京大学 総合博物館)

⑨ 須恵器 3D-RGB データの深層学習クラスター解析による型式・年代分類基準の検証

科研費 基盤研究 B1 (22H00744) 令和 4 - 6 年度
研究分担者：宮尾 亨
(研究代表者：藤田晴啓 新潟国際情報大学)

- ⑩ 最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間－環境相互作用
 科研費 基盤研究 B1 (19H01345) 平成 31-34 年度 (令和元-4 年度)
 研究分担者：橋詰 潤
 (研究代表者：島田和高 明治大学博物館 学芸員)
- ⑪ 佐渡古浄瑠璃の研究基盤構築とデジタル化保存に関する総合的研究
 科研費 基盤研究 B (20H01230) 令和 2-6 年度
 研究分担者：大楽和正
 (研究代表者：田草川みずき 千葉大学大学院人文科学研究院 准教授)
- ⑫ 地域における歴史意識の形成過程に関する研究－由緒関係文書の原本調査を踏まえて－
 科研費 基盤研究 B1 (21H00570) 令和 3-5 年度
 研究協力者：前嶋 敏
 (研究代表者：坂田 聡 中央大学文学部教授)

オ 自主企画の学術研究出版物 (図録・紀要・報告書等)

- ① 『新潟県立歴史博物館研究紀要』第 24 号 (令和 5 年 3 月 25 日) A 4 判 162 頁 モノクロ 1,500 部

編集 新潟県立歴史博物館

発行 新潟県立歴史博物館

[目次]

【研究ノート】

新潟県小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土石器の再検討 (4)

－いわゆる棒状尖頭器の再検討－ (橋詰 潤) 1～26 頁

新潟県内近世近代窯業址について (3) (西田 泰民) 27～38 頁

新潟県内の水族館に関する覚書 (4)

－初代寺泊水族館の水槽の構造について－ (山本 哲也) 39～50 頁

新潟県立歴史博物館のオリジナル体験プログラム開発と実践

－江戸時代の鏡師になろう！－ (山本 哲也) 51～62 頁

盆花・盆飾りに利用される野生植物

－新潟県魚沼市の事例を中心として－ (三国 信一) 63～84 頁

「えご」の食味はどのように表現できるか？ - 官能評価と物性評価の記録 -

(大楽和正・阿部元春・大菅元晴・鷲山厚・村上茂・松崎千秋・海老名秀・諸橋敬子・松原祐樹)
 85～107 頁

新潟県下布関係資料のアーカイブ化の試み 2

－岩室民俗史料館所蔵の仕事着を事例として－ (陳 玲) 109～132 頁

【資料紹介】

新潟県指定文化財「太刀 弘次」 (原 航) 133～139 頁

【コメント】

五位野家と妙高山・木曾義仲

－原航「新潟県指定文化財『太刀 銘弘次』」に寄せて－ (前嶋 敏) 140～122 頁

【文献目録】

2022 年新潟県地域史関係文献目録 (新潟県地域史研究ネットワーク事務局) 123～146 頁

② 『越後文書宝翰集 築地氏文書』(令和5年3月)

A4判77頁 カラー 750部

編集 矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館(前嶋 敏)

発行 新潟県立歴史博物館

[目次]

はじめに

図版編

築地氏文書第一巻

8頁

第二巻

17頁

第三巻

20頁

解説編

築地氏の系譜と築地氏関連文書の伝来 前嶋 敏

32頁

各文書翻刻・解説

44頁

主要参考文献一覧

76頁

③ 『生業絵巻尽 - ひらけ!江戸の産業図鑑 - 』(令和4年9月17日)

A4判143頁 カラー 1,500部(渡部浩二)

[目次]

ごあいさつ

3頁

目次

5頁

江戸時代の生業絵巻

6頁

第1章 絵巻の歴史

11頁

第2章 江戸時代の産業の発展

15頁

コラム 『日本山海名物図会』と『日本山海名産図会』

26頁

第3章 さまざまな生業絵巻

27頁

コラム 受け継がれた絵巻の画法

71頁

第4章 佐渡金銀山絵巻

83頁

第1節 描き継がれた絵巻

84頁

第2節 絵巻への関心と多様な写本

96頁

第3節 絵巻で読み解く鉱山技術とその変遷

104頁

第4節 絵巻の文化的影響

112頁

コラム 絵巻でみる鉱山で働く女たち

132頁

展示資料解説

134頁

主要参考文献

142頁

展示資料一覧

143頁

謝辞

144頁

④ 『やきもの産地・にいがた』(令和5年3月31日)

デジタル版47頁 カラー(西田泰民)

[目次]

ごあいさつ

新潟のやきもの作り

1 藩窯とその後継

6頁

2 焼酎徳利の隆盛

12頁

3 下越の諸窯

15頁

4 中越の諸窯

21頁

5	上越の諸窯	25 頁
6	磁器への挑戦	28 頁
7	東北の諸窯	32 頁
8	九州の陶器	35 頁
	古美術収集家としての故柴澤一仁氏	38 頁
	出品資料リスト	45 頁

カ 専門書・専門誌への論文等その他年間執筆一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
西田泰民	至急武器を出荷されたし	『新潟史学』83	新潟史学会	7月	23～40頁
西田泰民	新潟県域近世近代窯跡の研究3	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	27～38頁
浅井勝利	新潟県地方史研究の動向	『信濃』74-7	信濃史学会	7月20日	19頁
山本哲也	縄文時代の貝塚が現代に語りかけるものとは何か	『文化財が語る学ぶ日本の歴史』	雄山閣	5月31日	25～36頁
山本哲也	“博物館学の展示”の可能性—企画展をとおして保管機能を普及啓発する—	『博物館とコレクション管理—ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用—』	雄山閣	6月25日	198～205頁
山本哲也	企画展でマンガを活用—新潟県立歴史博物館の事例から	『博物館研究』57-7	日本博物館協会	6月25日	14～17頁
山本哲也	博物館とジェンダー—これまでと現在、そして課題	『博物館研究』57-12	日本博物館協会	11月25日	6～9頁
山本哲也	新潟県内の水族館に関する覚書(4)—初代寺泊水族館の水槽室の構造について—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	39～50頁
山本哲也	新潟県立歴史博物館のオリジナル体験プログラム開発と実践—江戸時代の鏡師になろう!—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	51～62頁
山本哲也	「総合」についての覚書	『國學院大學博物館学紀要』	國學院大學博物館学研究室	3月31日	73～83頁
宮尾 亨	縄文土器 3D-RGB データの深層学習クラスター解析に向けた Voxel 化および解像度の評価	日本情報考古学 第46回大会講演集 Vol.26 (通巻46号)	日本情報考古学会	3月31日	66～7頁
宮尾 亨	水煙土器と火炎土器	今福利恵博士追悼論文集モノ・構造・社会の考古学	今福利恵博士追悼論文刊行委員会	11月13日	63～76頁
宮尾 亨	世界遺産ストーンヘンジのビジターセンター特別展「環状列石：ストーンヘンジと日本先史」	ジョーモネスクジャパン会報 Vol.17	NPO 法人ジョーモネスクジャパン	1月31日	13～15頁
陳 玲	新潟県下布関係資料のアーカイブ化の試み2—岩室民俗史料館所蔵の仕事着を事例として—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	109～132頁
渡部浩二	『金銀山大概書』の成立年代と類本の検討	『日本鉱業史研究』72	日本鉱業史研究会	6月20日	15～24頁
渡部浩二	新潟県地方史研究の動向	『信濃』74-7	信濃史学会	7月20日	21～23頁
前嶋 敏	(新刊紹介)『長野県栄村誌』歴史編	『地方史研究』420	地方史研究協議会	12月1日	115～116頁
前嶋 敏	『日蓮聖人と法華文化』展を開催して	『法華』108-12	法華会	12月5日	19～23頁
前嶋 敏	『日蓮聖人と法華文化』展を開催して—日蓮聖人曼荼羅本尊—	『法華』109-1	法華会	1月20日	20～24頁
前嶋 敏	(コメント)五位野家と妙高山・木曾義仲—原航「新潟県指定文化財 太刀銘弘次」に寄せて—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	140～144頁
前嶋 敏	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 築地氏文書』(編集・項目執筆)		新潟県立歴史博物館	3月	1～78頁
前嶋 敏	戦国期築地氏の系譜と築地氏関連文書の伝来	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 築地氏文書』	新潟県立歴史博物館	3月	32～43頁
三国信一	五十嵐稔先生の思い出と民具の危機	『越佐民具 五十嵐稔会長追悼記念号』	新潟県民具学会	3月10日	22～23頁
三国信一	盆花・盆飾りに利用する野生植物—新潟県魚沼市の事例を中心として—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	60～84頁
橋詰 潤	神子柴石器群の出自にかかわる諸問題：ロシア極東地域アムール川下流域の調査成果との比較から	『“検証：サピエンス日本列島への道”』	明治大学黒耀石研究センター	10月	38～46頁
橋詰 潤	新潟県小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土石器の再検討(4)—いわゆる棒状尖頭器の再検討—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	1～26頁
大楽和正	海藻食「えご」食文化を守る・つなぐ・広める—博物館学芸員と越後えご保存会の取り組み—	『日本民俗学』312	日本民俗学会	11月30日	290～293頁
大楽和正	五十嵐先生との思い出	『越佐民具 五十嵐稔会長追悼記念号』	新潟県民具学会	3月10日	19～20頁
大楽和正	「えご」をめぐる調査研究と実践—2022年の活動記録—	『新潟県立歴史博物館研究紀要』24	新潟県立歴史博物館	3月25日	85～107頁

キ 調査報告書・辞典・参考書等への年間執筆一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
西田泰民	『やきもの産地・にいがた』		新潟県立歴史博物館	3月31日	1～47頁
西田泰民	出土ガラスについて	『東京大学白金台構内の遺跡 医科学研究所附属病院A棟地点 研究編』	東京大学埋蔵文化財調査室	12月28日	123～125頁
山本哲也	東京1964パラリンピックのレガシー	『守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～』	「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会	3月30日	36～37頁
宮尾 亨	世界遺産ストーンヘンジビジターセンター特別展「環状列石：ストーンヘンジと日本先史」	国際縄文フォーラム火焰街道往来2023	信濃川火焰街道連携協議会	2月25日	16頁
渡部浩二	『生業絵巻尽一ひらけ！江戸の産業図鑑～』		新潟県立歴史博物館	9月17日	1～144頁

ク 一般書・一般雑誌・新聞等への年間寄稿一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
前嶋 敏	手紙が語る歴史秘話 vol.59 「上杉早虎（謙信）から喜平次（上杉景勝）へ 書の上達を喜ぶ手紙」	月刊『江戸楽』令和4年6月号	エー・アール・ティ	5月20日	38～39頁
前嶋 敏	（にいがたの一冊）「今福匡『図説上杉謙信』戎光祥出版」	『新潟日報』令和4年6月5日号	新潟日报社	6月5日	
三国信一	「日本編」(『世界の魔よけ図鑑』)	『世界の魔よけ図鑑』	岩崎書店	8月31日	4～36頁
三国信一	（呪術入門）「暮らしの中の呪物」	『怪と幽』Vol.010 令和4年5月号	KADOKAWA	4月25日	34～37頁

ケ 学会発表等一覧

氏名	タイトル	学会・講演会名	会場	期日	備考
西田泰民	Computed Tomography and Fiber-tempered Jomon Pottery	Society for East Asian Archaeology	韓国国立京北大学	6月30日	
西田泰民	プラントオパール分析による繊維土器の給源植物同定に関する基礎的研究	日本文化財科学会	千葉大学	9月10日	
山本哲也	博物館、博物館学、遺産、コレクション、資料	日本ミュージアム・マネージメント学会研究会「今、博物館研究の在り方を考えるー最新の博物館学事典の活用からー」	ビジョンセンター日比谷	11月16日	
宮尾 亨	3D 深層学習クラスター解析を目的とした光学スキャナーによる縄文土器計測	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	6月25日	
宮尾 亨	Verification of pottery types and dating criteria by deep learning cluster and supervised classification analyses of 3D-RGB data	Society for East Asian Archaeology, 9th Session(6)	韓国国立京北大学	6月30日	第9回東アジア考古学会国際会議オンライン、藤田晴啓・山本亮と連名 代表発表者：藤田晴啓（新潟国際情報大学）
宮尾 亨	パネルディスカッション 世界遺産と日本遺産をつなぐ	国際縄文フォーラム火焰街道往来2023	新潟市民プラザホール	2月25日	コディネーター
宮尾 亨	縄文土器における修復部位検出のための点群セグメンテーション手法の検討	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県立歴史博物館	3月25日	南雲彩花・藤田晴啓・板垣正敏・市川健太・河野一隆と連名 代表発表者：宮尾亨
宮尾 亨	統計的画像処理と機械学習による文化財のデジタル画像復元	日本情報考古学 第47回大会	日本情報考古学会オンライン	3月25日	河野一隆・板垣正敏・藤田晴啓・河原和好・山本 亮・市川健太・南雲彩花と連名 代表発表者：河野一隆（九州国立博物館）
宮尾 亨	縄文土器 3D 深層学習クラスター解析に向けた Voxel 解像度差の影響評価	日本情報考古学 第47回大会	日本情報考古学会オンライン	3月25日	南雲彩花・市川健太・藤田晴啓・板垣正敏・河野一隆と連名 代表発表者：南雲彩花（BSN アイネット株式会社）

渡部浩二	佐渡金銀山の道具に関する文献・絵画史料	石見銀山国内鉱山比較研究客員検討会	オンライン	10月14日	
渡部浩二	手島組の宗門改帳	越佐歴史資料調査会現地報告会	両毛町内会館（上越市頸城区）	2月18日	
前嶋 敏	慶長二年越後国郡絵図	新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会研修会	新潟県立歴史博物館	11月18日	
橋詰 潤	新潟県小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土棒状尖頭器の再検討	日本旧石器学会第20回大会 研究発表・シンポジウム	名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館	6月4日	
橋詰 潤	神子柴石器群の出自にかかわる諸問題：ロシア極東地域アムール川下流域の調査成果との比較から	シンポジウム“検証：サピエンス日本列島への道”	いなっせ（長野県伊那市）	10月22日	
大楽和正	東北の人形道祖神あれこれ—2022年の撮影写真を中心に—	新潟県石仏の会第26回石仏フォーラム	ほんぼーと新潟市立中央図書館	11月13日	井上光威との連名
大楽和正	海藻と食文化—えごは食文化といえるか	國學院大學伝承文化学会令和4年度第3回フォーラム	國學院大學（ハイブリット開催）	2月18日	

コ 高等教育機関（大学等）への年間講師派遣一覧

氏名	科目名	出講先
西田泰民	技術から見た歴史探究	長岡技術科学大学
西田泰民	文化財学概論	長岡造形大学
西田泰民	博物館資料論	長岡造形大学
浅井勝利	博物館情報・メディア論	長岡造形大学
浅井勝利	地域から文化を考える	新潟大学
山本哲也	博物館教育論	長岡造形大学
山本哲也	博物館教育論	新潟産業大学
山本哲也	博物館概論	國學院大學
渡部浩二	技術からみた歴史探究	長岡技術科学大学
渡部浩二	近世越後諸地域の歴史と社会	新潟大学
前嶋 敏	技術からみた歴史探究	長岡技術科学大学
前嶋 敏	文化財学概論	長岡造形大学
田邊 幹	地域文化論	長岡造形大学
田邊 幹	歴史と文化	長岡崇徳大学
三国信一	日本の伝統芸能	新潟産業大学
大楽和正	文化財学概論	長岡造形大学
大楽和正	博物館資料保存論	長岡造形大学
大楽和正	日本の伝統芸能	新潟産業大学

サ ホームページによる研究内容の公開

浅井勝利：個別研究成果（新潟県内出土文字資料データベース）を公開

<http://member.nbz.or.jp/asai/index.html>

西田泰民：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究B「日本における稲作以前の主食植物の研究」の成果を公開

<http://www.asahi-net.or.jp/~zh4y-nsd/starchhp/stitle.html>

宮尾 亨：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C「博物館における縄文食プログラム策定の基礎資料収集及び新分析手法の開発」の成果を公開

<https://ameblo.jp/niigataarekihaku/>

<http://sites.google.com/site/torum01/jomon-foods>

シ 編集に参画した学術研究出版物（図録・紀要・報告書等）

① 『守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～』（令和5年3月30日）

B5判 40頁 カラー 1,500部

編集 「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会（担当：山本哲也）

発行 「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会

〔目次〕

はじめに	1 頁
1. 京都盲啞院	3 頁
(1) 盲啞院の歴史	4 頁
(2) 教育掛図	5 頁
(3) 絵画作品	8 頁
2. 高田盲学校	15 頁
3. 義肢の歴史とリハビリテーション	21 頁
〔コラム〕 障害者と戦争	31 頁
4. 太陽の家、そしてパラリンピック	33 頁
(1) 太陽の家	34 頁
(2) 東京 1964 パラリンピックのレガシー	36 頁
(3) パラリンピック関連資産から	38 頁

② 『国際縄文フォーラム火焰街道往来 2023

ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山ー世界遺産と日本遺産をつなぐー』(令和 5 年 2 月 25 日)

A 4 判 16 頁 カラー 1000 部

編集 信濃川火焰街道連携協議会 (担当: 宮尾 亨)

発行 信濃川火焰街道連携協議会

ス 研究協力一覧

協力者	協力事業	協力先	期間
西田泰民	「文化財科学」 編集委員	日本文化財科学会	
西田泰民	長岡市文化財保護審議委員	長岡市教育委員会	
浅井勝利	ササラ西遺跡出土木簡調査	(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団	5 月
浅井勝利	丘江遺跡出土木製品調査	(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団	5 月
浅井勝利	蕪木遺跡出土土器の鑑定	(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団	2 月
山本哲也	博物館研究編集委員	日本博物館協会	
山本哲也	國學院大學博物館共同研究員	國學院大學博物館	
宮尾 亨	大湯環状列石 JOMON 体感促進事業検討委員会	鹿角市	令和 4 年度
宮尾 亨	史跡整備調査指導委員会	津南町教育委員会	令和 4 年度
渡部浩二	歴史の道八十里越調査保存整備検討委員会	只見町教育委員会	令和 3 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日
渡部浩二	世界遺産室客員研究員 (石見銀山遺跡調査研究)	島根県教育委員会	令和 3 年 4 月～令和 6 年 3 月
渡部浩二	日本鉱業史研究会理事	日本鉱業史研究会	
前嶋 敏	中央史学会評議員	中央史学会	
前嶋 敏	新潟県埋蔵文化財調査事業団「新潟県丘江遺跡出土木製品検討会」への参加	新潟県埋蔵文化財センター	5 月 6 日
田邊 幹	地域における歴史文化研究拠点の構築	人間文化研究機構	
橋詰 潤	新潟県考古学会役員	新潟県考古学会	
橋詰 潤	日本ジオパーク委員会委員	日本ジオパーク委員会	
橋詰 潤	白滝ジオパーク推進協議会国際黒曜石会議学術運営部会委員	白滝ジオパーク推進協議会	
橋詰 潤	新版地学辞典増補・編集、執筆担当者	地学団体研究会	令和 4 年 4 月～
大楽和正	日本民俗学会評議員	日本民俗学会	
大楽和正	日本民具学会評議員	日本民具学会	
大楽和正	新潟県民俗学会理事	新潟県民俗学会	
大楽和正	新潟県石仏の会事務局広報委員	新潟県石仏の会	
大楽和正	新潟県民具学会事務局	新潟県民具学会	

セ 展示等協力

協力者	協力事業	協力先	期間
田邊 幹	山本五十六記念館展示企画委員	特定非営利活動法人 山本元帥景仰会	令和3年4月19日～令和5年4月18日
田邊 幹	阪之上小学校伝統館運営委員	阪之上小学校	4月1日～3月31日
山本哲也	備前焼狛犬修復	出雲崎町教育委員会	5月～
山本哲也	ハコ展～箱膳から「ハコモノ」まで	美濃加茂市民ミュージアム	7月16日～8月28日
山本哲也	たかつきのどんぐり	高槻市立自然博物館 あくかびあ茶川	10月22日～1月9日

ソ 講演等一覧

講演者	講演タイトル	講座名等	会場	期日
宮尾 亨	土器を通して考える先史社会	新潟県生涯学習協会企画講座「新潟県の歴史 TOPIX」	新潟国際情報大学新潟中央キャンパス	5月13日
陳 玲	越後の綿織物と亀田織	令和4年度 江南区郷土資料館事業「第7回 郷土資料館講座」	江南区文化会館 多目的ルーム	12月4日
渡部浩二	江戸初期の越後国と佐渡国	新潟県生涯学習協会企画講座「新潟県の歴史 TOPIX」	新潟国際情報大学新潟中央キャンパス	6月10日
渡部浩二	世界に誇る鉱山絵巻	にいがた市民大学	クロスパルにいがた	7月30日
渡部浩二	堀直寄の時代と越後長岡	さわやか悠久大学	アオーレ長岡	10月24日
渡部浩二	江戸時代の旅と越後の名所	新潟郷土史研究会例会	クロスパルにいがた	1月21日
前嶋 敏	越後の統一	新潟県生涯学習協会企画講座「新潟県の歴史」	新潟国際情報大学新潟中央キャンパス	5月27日
前嶋 敏	中世のはなし	じょうえつ歴史講座	上越歴史館 釜蓋遺跡ガイドンス	10月8日
前嶋 敏	鮎川家伝来文書について 中世文書(写)を中心に	大場沢古文書解説会	大場沢会館	10月9日
前嶋 敏	戦国時代の女	歴史講座	柏崎市高田コミュニティセンター	11月11日
前嶋 敏	越後毛利の祖先から柏崎の史実を知る	かしわざき市民大学講座	柏崎市市民プラザ	11月26日
田邊 幹	長岡藩銃卒の出陣日誌からみた長岡城攻防戦	古文書解説講座「古文書に見る長岡のすがた」	長岡市中央公民館	6月1日
田邊 幹	明治維新期の感染症対策ー近代化とコレラー	新潟県生涯学習協会企画講座「新潟県の歴史 TOPIX」	新潟国際情報大学新潟中央キャンパス	6月17日
田邊 幹	長岡藩の一兵士の日記に見る北越戊辰戦争	堀之内公民館歴史講座	堀之内公民館	12月10日
橋詰潤	荒屋遺跡からみる旧石器時代のくらしと北方世界とのつながり	まちなかキャンパス長岡、まちなかカフェ	まちなかキャンパス長岡	2月14日
大楽和正	食から見る雪国の暮らし	博物館講座「究極の雪国をまなぶ」	十日町市博物館	6月4日
大楽和正	新潟の石仏ー石仏の見方・調べ方・楽しみ方ー	新潟県退職者の会長岡支部学習会	アトリウム長岡	2月28日

(5) 被災文化財の救済活動

ア 中越大震災・中越沖地震

平成16年10月23日の中越大震災以降、当館では地域貢献の一環として災害復興への一翼を担うべく、各市町村教育委員会や新潟歴史資料救済ネットワークと連携して、地域の資料の救済（一時預かり）を行っている。

新潟県中越大震災

所蔵者	資料	状態
(個人)	屏風	一時預かり継続中
(個人)	屏風・軸装品・古文書・焼物・漆器	一時預かり継続中
薬師堂(野田)	薬師如来像、薬師堂関連写真(乾板含)、薬師堂建築部材等	一時預かり継続中

新潟県中越沖地震

所蔵者	資料	状態
二田物部神社	狛犬、徳川朱印状ほか 約700点	一時預かり継続中
超願寺	古文書19通、什器13件	一時預かり継続中

イ 新潟・福島豪雨

平成23年7月の新潟・福島豪雨により、南魚沼市雲洞の雲洞庵が被災した。雲洞庵からの依頼により、古文書等を一時預かり、新潟歴史資料救済ネットワークと連携して吸水乾燥・クリーニングなどの処置を実施している。

(6) 新潟県地域史研究ネットワーク

県内歴史研究のセンター的役割を果たすため、県内の地域史関係者及び郷土史研究団体のネットワーク形成と、それに伴う関連情報の集約と発信を担う組織として、平成22年度末に「新潟県地域史研究ネットワーク」を立ち上げた。

令和4年度は、趣旨に賛同する25団体の協力を得て、以下の事業を事務局として実施した。

- ・SNS (Facebook、Twitter等) による情報の発信。
- ・「新潟県地域史研究ネットワークニュース」の発行 (毎月、新潟県地域史に関する研究情報等を集約し、会員各団体に送付。)
- ・「新潟県地域史関係文献目録」(『研究紀要』に1年間の地域史研究に関する文献目録を掲載。)

2 交流普及事業概要

(1) 講座

当館研究員の「調査・研究」活動の成果を広く県民に普及する場として、また、県民の多様なニーズに即した生涯学習の場とするため、講座を開講している。館内講座・出前講座を合わせ、合計で1,314人の参加を得た。

① 館内講座

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により平成2年度以降の継続で人数に制限を設けて実施した。ただし、研修室での座学の講座の定員を当初18名と設定したところ、6月以降の座学講座の定員を36名に増加した。また、講堂の人数制限を75人に設定していたところ、10月以降は100人に増加した。

以上のもと、講演会・講座・体験型講座を計36回開催した。内容及び担当者・参加人数は下表のとおりであり、合計で771人の参加を得た（11月12・19日は講師都合により中止とした）。

	月 日	曜日	内容	担当者	人数
1	5月14日	土	国際博物館の日記念「市民とともに歩む歴史博物館」	山本 哲也	8
2	5月15日	日	えごの日記念講座「新潟の食文化を考える」	大楽 和正	44
3	5月22日	日	企画展記念講演会「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」	渡辺美知代氏 (ポーラ文化研究所)	69
4	6月4日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」①	田邊 幹	27
5	6月11日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」②	田邊 幹	24
6	6月18日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」③	田邊 幹	25
7	6月25日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」④	田邊 幹	25
8	7月2日	土	新潟県の布文化シリーズ1	陳 玲	13
9	7月9日	土	新潟県の布文化シリーズ2	陳 玲	13
10	7月23日	土	新潟県の布文化シリーズ3 布ツアー	陳 玲	7
11	7月30日	土	旧石器時代から縄文時代への移りかわり	橋詰 潤	33
12	8月5日	金	作ってみよう「本格まが玉」夏の部①	山本 哲也	6
13	8月5日	金	作ってみよう「本格まが玉」夏の部②	山本 哲也	8
14	8月6日	土	自分の指のレプリカを作ろう	山本 哲也	0
15	8月20日	土	博物館のうらがわ探検ツアー	三国 信一	16
16	8月27日	土	動画を読み解く・新潟県の盆行事	三国 信一	13
17	9月10日	土	明治前期新潟発外国人の通信文を読む	西田 泰民	17
18	9月24日	土	東西比較から見た日本古代の城柵	浅井 勝利	19
19	10月1日	土	古文書講座「はじめてのくずし字ー古文書を読む前にー」	本多 園子	25
20	10月9日	日	江戸時代のモノづくりと産業絵図～鉾山を中心に～	鈴木 一義氏 (前国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長)	41
21	10月15日	土	石器鑑賞入門2「石がたどった歴史に目を向ける」	橋詰 潤	6
22	10月22日	土	新潟県の産業絵巻	渡部 浩二	21
23	10月29日	土	沼垂郡の成立と消滅	浅井 勝利	19
24	11月5日	土	かて飯ー米のおいしい節約術ー	大楽 和正	14
	11月12日	土	古文書講座～江戸時代を探る～前編	渡部 浩二	中止
	11月19日	土	古文書講座～江戸時代を探る～後編	渡部 浩二	中止
25	11月26日	土	高橋竹之介の大河津分水構想	田邊 幹	73
26	12月3日	土	古文書講座～越後文書宝翰集を読み解く～前編	前嶋 敏	30
27	12月10日	土	古文書講座～越後文書宝翰集を読み解く～後編	前嶋 敏	23
28	12月17日	土	粘土に植物を混ぜて作った土器	西田 泰民	16
29	1月21日	土	縄文土器の鑑賞	宮尾 亨	31
30	1月28日	土	博物館を知る講座「プラネタリウムの過去、現在、未来」	山本 哲也	12
31	2月4日	土	火焰土器の突起をつくる	宮尾 亨	18
32	2月18日	土	縄をつくる・縄文をつくる	宮尾 亨	11
33	3月1日	水	粘土に植物を混ぜて作った土器	西田 泰民	10
34	3月4日	土	雪国の食文化	大楽 和正	19
35	3月18日	土	越後地域近世近代窯跡の調査	西田 泰民	20
36	3月25日	土	作ってみよう『本格まが玉』(春の部)	山本 哲也	15

② 出前講座

令和4年度は、11の市町村で計22回にわたり開催した。内容及び担当者・参加人数は下表のとおりであり、合計で543人の参加を得た。

	月 日	曜日	会場	内容	担当者	人数
1	5月22日	日	胎内市美術館	岡本太郎の縄文土器論	宮尾 亨	20
2	5月22日	日	聖籠町町民会館	お菓子と新潟	渡部 浩二	8
3	5月26日	木	柏崎市立図書館	江戸時代の旅と越後の観光名所	渡部 浩二	12
4	6月17日	金	上北谷公民館	明治前期新潟の外国商人	西田 泰民	12
5	7月26日	火	小千谷市民会館	井上円了の妖怪学	田邊 幹	57
6	7月27日	水	米倉農村環境改善センター	納豆と日本人	大楽 和正	15
7	7月27日	水	宮内コミュニティセンター	井上円了の妖怪学	田邊 幹	10
8	7月28日	木	見附市中央公民館	作ってみよう（本格まが玉）	山本 哲也	18
9	7月30日	土	中之島コミュニティセンター	作ってみよう（本格まが玉）	山本 哲也	15
10	8月30日	火	見附市ふぁみりあ	新潟の石仏	大楽 和正	21
11	9月15日	木	川東コミュニティセンター	越後・佐渡の古代を探る ～東北史の視点から～	浅井 勝利	16
12	9月28日	水	豊浦地区公民館	井上円了の妖怪学	田邊 幹	26
13	10月13日	木	高田城址公園 オーレンプラザ	戦国時代の女	前嶋 敏	35
14	10月18日	火	新発田市生涯学習センター	年中行事と子ども	三国 信一	28
15	10月20日	木	中島コミュニティセンター	直江兼続とその時代	前嶋 敏	17
16	10月20日	木	アミューズメント佐渡	世界に誇る佐渡金銀山絵巻	渡部 浩二	71
17	11月6日	土	大島コミュニティセンター	河童が教えてくれた菓	大楽 和正	8
18	11月11日	金	見附市葛巻公民館	明治英文旅行ガイドに見る新潟	西田 泰民	12
19	11月26日	土	新発田市立歴史図書館	博物館を知る講座「博物館と学芸員」	山本 哲也	19
20	12月2日	金	クロスバルにいがた	戦国時代の女	前嶋 敏	69
21	12月10日	土	五泉市総合会館	土偶をつくろう	宮尾 亨	10
22	3月11日	土	見附市北谷公民館	縄文時代の交流	宮尾 亨	44

③ サイノカミ

開館した平成12年度より、関原町サイノカミ有志の会と協働で、毎年小正月の時期の日曜日に新潟県の冬の民俗行事「サイノカミ」を実施している。これまでの実施期日、参加者数は以下のとおりである。

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため当館HP以外の広報を行わなかったが、令和4年度は通常に戻し、参加者数が回復傾向にある。

また実施当日について、サイノカミ有志の会による餅、甘酒のふるまい、スルメの販売は感染症拡大防止のため令和2・3年度は行わなかったが、スルメの販売については令和4年度再開した。

年度	期日	参加者数	H23年度	H24年1月15日	750人
H12年度	H13年1月14日	230人	H24年度	H25年1月13日	750人
H13年度	H14年1月13日	750人	H25年度	H26年1月12日	500人
H14年度	H15年1月12日	620人	H26年度	H27年1月11日	500人
H15年度	H16年1月11日	520人	H27年度	H28年1月17日	650人
H16年度	H17年1月16日	800人	H28年度	H29年1月15日	500人
H17年度	H18年1月15日	760人	H29年度	H30年1月14日	600人
H18年度	H19年1月14日	780人	H30年度	H31年1月13日	700人
H19年度	H20年1月13日	800人	R1年度	R2年1月12日	800人
H20年度	H21年1月11日	500人	R2年度	R3年2月28日	200人
H21年度	H22年1月17日	700人	R3年度	R4年1月16日	240人
H22年度	H23年1月16日	500人	R4年度	R5年1月15日	380人



令和5年1月15日のサイノカミ

(2) 体験プログラム

令和3年度からの継続で、原則日曜日に研修室を使用して実施していたところ、11月の試着体験以降は体験コーナー（常設展示室内の「雪とくらし」と「米づくり」の間にある20畳敷きの部屋）での実施に戻した。ただし、サイノカミ実施日は休止とした。

まず令和3年度3月12日からの各土曜日、上記体験コーナーを使用しての試着体験（甲冑・平安貴族）を、家族を基本とする各1組限定の申し込み制で本年度4月16日まで実施した（午前に甲冑、午後に平安貴族）。

体験プログラム実施に当たっての新型コロナウイルス感染症の基本の対策は以下の通り。

- ・10月までは基本的に換気環境が確保できる研修室を会場とし、11月に開催の試着体験からは原則体験コーナーを会場とすることとした。なお、「切り紙で正月飾り」は研修室での実施とした。
- ・使用する道具は消毒して使用。
- ・手指消毒用アルコールを準備。また、手指消毒協力への声かけの実施。
- ・来館者カードを用意し、来館者の住所、氏名・人数等、感染者発生の際の連絡先を記入（9月4日まで、9月11日以降は中止）。

以上のもと実施した体験プログラムの内容・日時等は下記のとおりである。62回実施し、総計で1,084人の参加を得た。

- ① 謙信・兼続に変身（6回、計25人）
上杉謙信や直江兼続の鎧（※模造品）を身に付けて、戦国武将に変身する体験。
- ② 平安貴族に変身（6回、計24人）
桂・狩衣を着る体験。
- ③ まが玉作り（5回、計84人）
滑石を削り、縄文時代～古墳時代の人々が身につけていたまが玉を作る体験。
- ④ 江戸美人缶バッジを作ろう！（3回、97人）
春季企画展「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」にあわせ、展示資料の画像を使用して缶バッジを作る体験。
- ⑤ 江戸時代の鏡師になろう！（4回86人）
春季企画展「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」にあわせ、江戸時代の小型の柄鏡・方鏡についてオープン粘土による型作りを行い、鏡面部分はアルミホイル貼りにより錫メッキをイメージさせる疑似鏡製作体験。
- ⑥ 江戸時代の鏡師になろう！（4回86人）
江戸時代の小型の柄鏡・方鏡についてオープン粘土による型作りを行い、鏡面部分はアルミホイル貼りにより錫メッキをイメージさせる疑似鏡製作体験。
- ⑦ 昔の遊び道具を体験しよう！（4回、計105人）
けん玉、コマなど、昔の遊び道具を体験。
- ⑧ ミニ灯籠作りに挑戦（3回、計22人）
灯籠流しで使用するサイズよりも小さめの灯籠を作る体験。
- ⑨ そっくり模型を作ろう（2回、計47人）
シリコン型にオープン粘土を充填して成形、加熱し、縄文時代の遺跡から出土した道具類と同じ形のものを作る体験。
- ⑩ 紙芝居読み聞かせ（3回、35人）
紙芝居「長岡空襲 みちこのいのち 長岡空襲体験者・七里アイさんの証言より」と大型絵本「かわいそうなぞう」の読み聞かせ。
- ⑪ 縄文模様コロコロ体験！（4回、計61人）

縄文文様をオープン粘土につけて加熱し、土器のミニチュアを作る体験。

⑫ 小判を作ろう（3回、計119人）

秋季企画展「生業絵巻尽一ひらけ！江戸の産業図鑑一」にあわせ実施した、オープン粘土を型に入れて成形し、極印のハンコなどで疑似的に小判を作る体験。

⑬ さき織りでコースター作りに挑戦（4回、計73人）

古い布を裂き、新たに糸とし、新しい布を織るという伝統文化のさき織りの体験。

⑭ 切り紙で正月飾り（2回、計47人）

切り紙で正月飾りの「はかま紙」を作る体験。

⑮ ヒスイ色の飾り—縄文時代の大珠—を作ろう（3回、計87人）

シリコン型に、4色のオープン粘土を混ぜ合わせヒスイ色を再現して縄文時代の大型の製品を作る体験。

⑯ 織物模様プラ板ストラップを作ろう！（5回、計105人）

江戸時代の織物模様をプラスチックの板に写し、ストラップにする体験。

⑰ 投扇興をやってみよう（2回、計43人）

扇子で蝶（的）に当て、その落ちた形などで点数を付けて競う、いにしへの遊びの体験。

⑱ 夏休み特別体験「刺し子に挑戦」「まが玉を作ろう」「花火玉貯金箱作り」（5回、計72人）

夏休みの3日限定で行う体験。1日目は「刺し子に挑戦 1回、12人」、2日目は「まが玉を作ろう 2回、18人」、3日目は「花火玉貯金箱作り 2回42人」だった。なお、「刺し子に挑戦」は、歴博ボランティア企画として実施したものである。

月 日	曜日	体験プログラム	参加人数
4月2日	土	謙信・兼続に変身	3
4月2日	土	平安貴族に変身	2
4月3日	日	まが玉作り	11
4月9日	日	謙信・兼続に変身	3
4月9日	日	平安貴族に変身	2
4月10日	日	まが玉作り	10
4月16日	日	謙信・兼続に変身	2
4月16日	日	平安貴族に変身	3
4月17日	日	まが玉作り	6
4月24日	日	江戸美人缶バッジを作ろう！	10
5月1日	日	江戸美人缶バッジを作ろう！	63
5月8日	日	江戸美人缶バッジを作ろう！	24
5月15日	日	江戸時代の鏡師になろう	13
5月22日	日	江戸時代の鏡師になろう	19
5月29日	日	江戸時代の鏡師になろう	25
6月5日	水	江戸時代の鏡師になろう	29
6月12日	日	昔の遊び道具を体験しよう！	17
6月19日	火	昔の遊び道具を体験しよう！	18
6月26日	木	ミニ灯籠作りに挑戦	10
7月3日	金	ミニ灯籠作りに挑戦	8
7月10日	日	ミニ灯籠作りに挑戦	4
7月17日	日	そっくり模型を作ろう	31
7月24日	日	そっくり模型を作ろう	16
7月27日	水	夏休み特別体験「刺し子に挑戦」	12
7月28日	木	夏休み特別体験「まが玉を作ろう①」午前	12
7月28日	木	夏休み特別体験「まが玉を作ろう②」午後	6
7月29日	金	夏休み特別体験「花火玉貯金箱作り①」午前	18
7月29日	金	夏休み特別体験「花火玉貯金箱作り②」午後	24
7月31日	日	紙芝居読み聞かせ	4
8月7日	日	紙芝居読み聞かせ	3
8月14日	日	紙芝居読み聞かせ	28

8月21日	日	縄文文様コロコロ体験	24
8月28日	日	縄文文様コロコロ体験	21
9月4日	日	縄文文様コロコロ体験	6
9月11日	日	縄文文様コロコロ体験	10
9月18日	日	小判を作ろう	51
9月25日	日	小判を作ろう	31
10月2日	日	小判を作ろう	37
10月9日	日	さき織でコースター作りに挑戦	22
10月16日	日	さき織でコースター作りに挑戦	8
10月23日	日	さき織でコースター作りに挑戦	25
10月30日	日	さき織でコースター作りに挑戦	18
11月6日	日	「謙信・兼続に変身」	7
11月13日	日	「謙信・兼続に変身」	6
11月20日	日	「謙信・兼続に変身」	4
11月26日	土	切り紙で正月飾り	21
11月27日	日	切り紙で正月飾り	26
12月4日	日	「平安貴族に変身」	6
12月11日	日	「平安貴族に変身」	5
12月18日	日	「平安貴族に変身」	6
12月25日	日	まが玉を作ろう	18
1月8日	日	まが玉を作ろう	39
1月22日	日	ヒスイ色の飾り—縄文時代の大型—を作ろう	58
1月29日	日	ヒスイ色の飾り—縄文時代の大型—を作ろう	11
2月5日	日	ヒスイ色の飾り—縄文時代の大型—を作ろう	18
2月12日	日	織物模様ストラップ作り	25
2月19日	日	織物模様ストラップ作り	15
2月26日	日	織物模様ストラップ作り	17
3月5日	日	投扇興をやってみよう	25
3月12日	日	投扇興をやってみよう	18
3月19日	日	昔の遊び道具を体験しよう	16
3月26日	日	昔の遊び道具を体験しよう	54

(中学校)

Table with 10 columns: No, 月日, 曜, 団体, 人数, 案内, 質問, 聴器, 聴覚, 体験, 備考. Contains data for middle schools and a total row at the bottom.

(高等学校)

Table with 10 columns: No, 月日, 曜, 団体, 人数, 案内, 質問, 聴器, 聴覚, 体験, 備考. Contains data for high schools and a total row at the bottom.

(大学)

Table with 10 columns: No, 月日, 曜, 団体, 人数, 案内, 質問, 聴器, 聴覚, 体験, 備考. Contains data for universities and a total row at the bottom.

(特別支援学校等)

Table with 10 columns: No, 月日, 曜, 団体, 人数, 案内, 質問, 聴器, 聴覚, 体験, 備考. Contains data for special support schools and a total row at the bottom.

(幼稚園・保育園)

Table with 10 columns: No, 月日, 曜, 団体, 人数, 案内, 質問, 聴器, 聴覚, 体験, 備考. Contains data for kindergartens and daycares and a total row at the bottom.

(4) 出前授業

県内の小学校・高等学校から出前授業の要請があり、7校において、下表のように実施した。

	実施日	時間	学校人	学年	人数	担当	内容等
1	6月3日	9:00~15:00	長岡・阪之上小学校	5	41+3(職員)	田邊	前島神社、朝日山古戦場にて戊辰戦争解説
2	7月2日	9:00~11:30	長岡・与板小学校	2	54+2(職員) +54(保護者)	山本・菊地	まが玉
3	7月4日	10:40~12:10	小千谷・千田小学校	6	27+2(職員)	種岡	まが玉
4	9月13日	14:45~15:45	長岡・宮本小学校	クラブ	15+4(職員)	山本・菊地・種岡	火起こし
5	10月14日	13:30~14:30	燕・吉田小学校	3	72+2(職員) +72(保護者)	本多・菊地	まが玉
6	1月20日	10:35~11:20	長岡・青葉台小学校	3	55+3(職員)	種岡・本多・菊地	昔の道具
7	1月23日	9:55~11:50	県立巻高等学校	3	15+1(職員)	本多	縄文授業・まが玉

(5) 職場体験

県内の中学校より依頼があり、希望する生徒を受け入れた。受け入れた期日・学校・人数は下記のとおり、6校、延べ41人だった。

No.	期日	学校人(学年)	人数	体験内容
1	6月29日(水)	長岡・関原中2年	5人	講義、バックヤード見学、体験準備、監視体験
2	6月30日(木)	長岡・関原中2年	5人	体験補助、SNS体験、体験用具準備
3	7月1日(金)	長岡・関原中2年	5人	体験用具準備、土器洗浄体験、拓本体験
4	7月5日(火)	長岡・大島中2年	5人	館内見学、講義、土器洗い体験
5	7月5日(火)	長岡・三島中2年	1人	館内見学、講義、土器洗い体験
6	7月6日(水)	長岡・大島中2年	5人	清掃活動、SNS体験、体験準備、監視体験
7	7月6日(水)	長岡・堤岡中2年	3人	清掃活動、SNS体験、体験準備、監視体験
8	7月7日(木)	長岡・三島中2年	1人	体験用具準備、バックヤード見学、拓本体験
9	7月7日(木)	長岡・堤岡中2年	3人	体験用具準備、バックヤード見学、拓本体験
10	9月30日(水)	長岡・西中2年	4人	バックヤード見学、土器洗い体験、体験用具準備、監視体験
11	10月12日(水)	長岡・青葉台中2年	2人	バックヤード見学、講義、土器洗い体験
12	10月13日(木)	長岡・青葉台中2年	2人	SNS体験、体験用具準備、監視体験

※7月5日、6日、7日はそれぞれ2校一緒に活動を実施。

(6) 高校生アカデミック・インターンシップ研修

新潟県教育委員会の主催事業として平成30年度から実施している当事業に、平成31年度から当館も参加し、令和4年度は3名の生徒を受け入れた。詳細は以下のとおりである。

- ・目的 大学等進学希望の生徒に「大学等の向こうにある社会」を意識させ、大学研究室や研究機関などと連携し、将来進む可能性のある学問分野に関連した研究活動等を体験し、大学等への視野を広げ、学習意欲や進路意識を高め、探究する力・課題解決能力等を身につける。
- ・実施日 8月9日(火)～10日(水)
- ・参加者 三条高等学校(普通科)2年3人
- ・内容 「学芸員の仕事を通して、博物館の役割を考える」をテーマに、学芸員とは何か、博物館の意義とは何かを理解してもらうことをめざし、研修プログラムを作成した。具体的な研究実践は、プレゼンテーション「博物館のチカラ～モノを守り、ココロを守る～」の講義に始まり、バックヤードの見学等を通じて博物館の役割を認識してもらった上で、展示企画、展示制作を実践してもらった。展示候補の原田泰治氏のピエゾグラフ(高精細複製画)の作品をもとに、企画書を各自で作成し(原田泰治作品は本来、春・夏・秋・冬・香川シリーズの構成であるが、それを敢えて崩し、テーマ設定により作品の見方に発見をもたらすことを意図している)、それを3人で1本企画書に再編、検討を進めた。
その上でテーマにふさわしい4点を選出し、それをどのように展示するのが効果的か、意見を出し合いながら展示計画をたて、実際に展示作業を行った。最終的に「輪一光が包む人と自然」というタイトルを決定。パネルの執筆・作成を行い、企画展示室前ロビーの壁面に、作品位置の決定からピクチャーレールへのフックの取り付け、ワイヤの設置と作品の吊り下げ、キャプション、パネルの設置等、基本的にすべて研修生の手にて展示を完成させた。
- ・成果 研修成果の発表として、当館の企画展示室前ロビーにて8月10日(水)から11月15日(火)まで展示した。また、三条高等学校にて、11月17日(木)から11月25日(金)の期間、同作品を移動展覧会として展示した。
研修生は12月27日(火)に新潟県自治会館で行われた事後報告会で研究の成果を発表し、個人の研修成果は『令和4年度高校生アカデミック・インターンシップ研修報告書』(新潟県教育委員会発行)に掲載された。



3 イベント

[主 催]

(1) 原田泰治氏追悼展示

期日：令和4年3月11日(金)～4月20日(水)

会場：企画展示ロビー

内容：3月2日に逝去された画家・原田泰治氏を追悼し、平成16年度に諏訪市より新潟県に寄贈されたピエゾグラフ（高精細複製画）作品から「宿根木」（佐渡）を展示（令和3年度からの継続）。

(2) 夏休みスペシャルイベント「ミッション中!!」

期日：7月16日(土)～8月28日(日)

会場：常設展示室・企画展示室

参加者数（記念品授与数）：1,058人

内容：常設展示室からスタートし、最後は企画展示室（夏季テーマ展示）に至る各所にミッションを設け、計5つのミッションをクリアするとオリジナルグッズ（オリジナル缶バッジ・クリアファイル）を手に入れることができるイベントを開催。



(3) キッズ歴史研究作品展

期日：2月4日(土)～2月26日(日)

会場：企画展示室

観覧者数：1,164人

内容：小中学生の夏休みなどにおける歴史に関する研究を募集。個人2人と関原小学校6年生の製作土器作品を展示（「第19回マイ・コレクション・ワールド」「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」と同時開催）。

[共 催]

(1) 展覧会「火焰街道 2022 夏」

期日：7月16日(土)～8月28日(日)

39日間

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主催：信濃川火焰街道連携協議会

期間中常設展示総観覧者数：5,056人

内容：信濃川火焰街道連携協議会（新潟市、三条市、長岡市、魚沼市、十日町市、津南町）は、文化財を通じた地域振興と広域観光を推進している。その活動の一環として、日本遺産「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」から火焰型土器など、器（うつわ）ばなれした造形のやきものを厳選して紹介した（夏季テーマ展示「重要文化財村尻遺跡出土品」と同時開催）。



- (2) 未来を拓く『新地域づくり』フォーラム「人間 渋沢栄一に学ぶ」
期日：10月30日（日）
会場：NCホール（ホテルニューオータニ長岡）
主催：一般社団法人 地域ルネッサンス創造機構 シンクタンク・ザ・リバーバンク
- (3) 新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会主催授業実践研修会
期日：11月18日（金）
会場：新潟県立歴史博物館 講堂・研修室
主催：新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会
参加者数：33人
- (4) 映画「縄文にハマる人々」上映会
期日：12月10日（土）
会場：新潟県立歴史博物館 講堂
主催：新潟県立歴史博物館友の会
参加者数：58人
内容：当館・小林達雄名誉館長が出演している、縄文を巡る様々な人々を追ったドキュメンタリー映画の上映会を実施。
- (5) 展覧会「第19回マイ・コレクション・ワールド」
期日：2月4日（土）～3月21日（火・祝）
会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室
主催：新潟県立歴史博物館友の会
観覧者数：2,319人
内容：友の会会員や一般市民コレクターから募ったコレクションを展示するもの（津南町なじよもん友の会の交流展示もあり）。計13件の出品を得た（前半は「キッズ歴史研究作品展」「kid's考古学新聞コンクール全国巡回展」と、後半は「原田泰治さん追悼展」「10年間ふるさとなみえ博物館」と同時開催）。
- (6) kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展
会期：2月4日（土）～2月26日（日） 20日間
会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室
主催：kid's 考古学研究所
共催：NPO 法人むきばんだ応援団
観覧者数：1,164人
内容：WEBサイト【全国子ども考古学教室】の実施する「kid's考古学新聞コンクール」の入賞作品を展覧。2022年度の第3回入賞作品に加え、2021年度の第2回入賞作品も併せて展覧。
- (7) 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「原田泰治さん追悼展」
会期：2月28日（火）～3月21日（火・祝） 19日間
会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室
主催：新潟県立歴史博物館友の会
観覧者数：1,155人
内容：令和4年3月2日に逝去された原田泰治さんを偲び、新潟県に寄贈された原田泰治作品の

ピエゾグラフ（高精細複製画）14点全点を展示した。

(8) 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「10年間ふるさとなみえ博物館」

会期：2月28日(火)～3月21日(火・祝) 19日間

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：1,155人

内容：福島県浪江町の小学生たちが、東日本大震災の避難先の二本松市で積み重ねてきた地域学習「ふるさとなみえ科」の10年間の成果をまとめた展覧会。

[協力]

(1) 信濃川火焰街道連携協議会

期日：令和4年度

内容：長岡市・十日町市・津南町・新潟市・三条市・魚沼市で構成する地域おこしを目的とした協議会への協力。小林達雄名誉館長が顧問となっている。

[参加]

(1) にいがた観光ファンクラブ Niicle (にーくる) キャンペーン

期日：4月15日(金)～5月18日(水)

主催：新潟県観光ファンづくり推進協議会

内容：「にいがた観光ファンクラブ Niicle (にーくる)」は、新潟が大好きな方や観光で訪れる方の「もっと新潟を知りたい!」「また新潟に行きたい!」という想いに応えるファンサイトで、同サイトで登録&アンケートの送信により、当館オリジナルクリアファイルをプレゼントした。

(2) にいがた ぐるっとミュージアム!

期日：7月14日(木)～2月28日(火)

企画：新潟県

主催：にいがた ぐるっとミュージアム!事務局

内容：新潟県内61の美術館・博物館・偉人顕彰館等を、無料または割引料金で入場できる周遊パスポートを発行し(大人1,000円、中学生以下500円)、各館の利用を促した。

(3) 長岡まつり「観光ふれあい広場」

期日：8月2日(火)

会場：アオーレ長岡 アリーナ

主催：(一社)長岡観光コンベンション協会

内容：来場者に缶バッジ(ブース内で各自自作)をプレゼントした(当館関連の図案以外に、長岡市内のゆるキャラなどのデザインも採用)。

4 博物館実習

9月26日(月)から10月6日(木)まで、博物館実習生を受け入れた。受入大学及び人数は、長岡造形大学(1人)、新潟大学(1人)、北海道大学(1人)、駒澤大学(1人)、八洲学園大学(2人)、神戸女子大学(1人)の5大学7人である。

内容は以下のとおり。

- 9月26日(月) オリエンテーション、防災訓練参加、館の概要、企画書に関する検討・提案(課題提示)、博物館と情報(課題提示)、博物館の役割・学芸員の業務(講義)
- 9月27日(火) 館内案内、資料保存(IPM)、課題調査
- 9月28日(水) 展示の設計と設営、考古資料について(資料の取り扱い・点検)、課題調査
- 9月29日(木) 民俗資料について(資料の取り扱い・点検)、文化財レスキューについて、課題調査
- 9月30日(金) 歴史資料について(資料の取り扱い・点検)、課題調査
- 10月1日(土) 休日(自主調査日)
- 10月2日(日) 博物館教育について(体験プログラムの開発)、体験プログラム実践、体験プログラム運営・観覧者行動調査
- 10月3日(月) 常設展示・資料展示替え
- 10月4日(火) キャプション・解説パネル作成、博物館教育について、課題調査
- 10月5日(水) 周辺施設について(経営・連携など)＝馬高縄文館、AV機器の取り扱い、課題調査・発表最終調整
- 10月6日(木) 課題発表(情報・企画書)、実習まとめ

Ⅲ 関係団体

1 新潟県博物館協議会

平成12年8月1日加盟。県内の博物館の連絡体であって、博物館の健全な発展を図り、もって教育・学術及び文化の発展に寄与することを目的に研修会、研究紀要の発行等の事業を実施している。当館・斎藤良人館長が副会長を務めた。

2 新潟県立歴史博物館友の会

平成12年8月1日の新潟県立歴史博物館の開館と同時に発足。

役員は、会長：鈴木重彦氏、副会長：小林昌二氏、星野紀子氏、川口伊麻里氏、近藤道弥氏、理事8人、監事2人で構成。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が困難だった研修旅行を再開した。

(1) 展覧会

① 「第19回マイ・コレクション・ワールド」

期日：2月4日(土)～3月21日(火・祝)

会場：新潟県立歴史博物館企画展示室

入場者数：2,319人



② 「原田泰治さん追悼展」

期日：2月4日(土)～3月21日(火・祝)

会場：新潟県立歴史博物館企画展示室

入場者数：1,115人

③ 「10年間ふるさとなみえ博物館」

期日：2月28日(火)～3月21日(火・祝)

会場：新潟県立歴史博物館企画展示室

入場者数：1,115人

(2) 研修旅行

「渋沢栄一翁をめぐる」

期日：令和4年11月5・6日（土・日）

場所：渋沢栄一記念館・尾高惇忠生家・誠之堂・飯能市立博物館・渋沢史料館・紙の博物館・
北区飛鳥山博物館

参加者数：16人

(3) 映画上映会

「縄文にハマる人々」

期日：12月10日（土）

会場：新潟県立歴史博物館講堂

参加者数：58人

(4) 博物館整備事業（芝刈り）

第1回 6月18日（土）

第2回 7月16日（土）

第3回 8月20日（土）

第4回 9月24日（土）

(5) 会報の発行

No.20 8月31日発行

No.21 3月30日発行

(6) 20周年記念誌の編集

(7) 理事会の開催

第1回 9月16日（金）

第2回 3月29日（水）

(8) 共催・後援事業

①共催事業

「未来を拓く『新地域づくり』フォーラム「人間 渋沢栄一に学ぶ」

期日：10月30日（日）

主催：一般社団法人地域ルネッサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンク

会場：ホテルニューオータニ長岡 NC ホール

②後援事業

「歴史探偵＝半藤一利さん追悼フォーラム&平和を考え行動する長岡」

期日：8月6日（土）

主催：一般社団法人地域ルネッサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンク

会場：ホテルニューオータニ長岡 NC ホール

IV 日誌抄

令和4年

- 4月23日(土) 春季企画展「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」開幕(～6月5日)
開場式・マスコミ向け解説実施
- 5月18日(水) 国際博物館の日記念無料観覧日
- 5月22日(日) 春季企画展記念講演会「浮世絵にみる江戸美人のよそおい」開催(於:講堂)
- 6月3日(金) 令和3年度第2回評価委員会(於:まちなかキャンパス長岡)
- 6月14日(火) 常設展示室燻蒸作業により臨時休館
- 6月27日(月) 防災訓練実施
- 7月14日(木) にいがたぐるっとミュージアム!参加(～2月28日)
- 7月15日(金) 『新潟県立歴史博物館年報』第22号—令和3年度—発行
(PDFデータをホームページ上で公開)
- 7月16日(土) 夏季テーマ展示「重要文化財村尻遺跡出土品」、共催展覧会「火焰街道2022夏」開幕
(～8月28日)、マスコミ向け内覧会実施
夏休み特別イベント「ミッション中!!」開催(於:常設展示室・企画展示室、～8月28日)
「歴博DE婚活」イベント
(ソラヒト日和主催、9月17日、1月29日、2月23日にも実施)
- 7月23日(土) 中学生ボランティア任命式(於:講堂)、同活動日
(ほか7月24、30、31日、8月6、7日の計6日間が活動日)
- 7月27日(水) 夏休み特別体験「刺し子に挑戦」
- 7月28日(木) 夏休み特別体験「まが玉を作ろう」
- 7月29日(金) 夏休み特別体験「火花玉貯金箱作り」
- 8月2日(火) 長岡まつり「観光ふれあい広場」参加
- 8月9日(火) 高校生アカデミック・インターンシップ研修(～8月10日)
- 8月10日(水) 高校生アカデミック・インターンシップ研修展示「輪—光が包む人と自然—」
(～11月15日、於:企画展示室前ロビー)
- 9月16日(金) 秋季企画展「生業絵巻尽一ひらけ!江戸の産業図鑑」開場式・内覧会実施
- 9月17日(土) 秋季企画展開幕(～10月30日)
- 9月26日(月) 博物館実習(～10月7日)
防災訓練実施
- 10月9日(日) 秋季企画展記念講演会「江戸時代のモノづくりと産業絵図～鉾山を中心に～」開催(於:講堂)
- 11月3日(木・祝) ヒスイ「県の石」指定記念 常設展ミニ展示開幕(於:常設展示室、～2月5日)
- 11月11日(金) 冬季テーマ展示「大河津分水と信濃川の治水」開場式・内覧会実施
- 11月12日(土) 冬季テーマ展示開幕(於:企画展示室、～1月15日)
- 11月17日(木) 移動展覧会「アカデミック・インターンシップ研修成果展『輪—光が包む人と自然—』」
(～11月25日、於:三条高等学校)
- 11月18日(金) 新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会主催授業実践研修会開催(於:研修室・講堂)
- 11月25日(金) 令和4年度第1回評価委員会(於:研修室)
- 12月10日(日) 友の会主催「縄文にハマる人々」映画上映会(於:講堂)
- 12月20日(火) 大雪の影響により臨時休館

令和5年

- 1月6日(金) 県内での鳥インフルエンザ確認に伴い、当館職員も防疫作業に従事
(～1月16日および3月13日～23日)
- 1月15日(日) サイノカミ実施
- 2月4日(土) 友の会主催展覧会「第19回マイ・コレクション・ワールド」開幕(～3月21日)
「Kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」「キッズ歴史研究作品展」開幕(～2月26日)
- 2月13日(月) 防災訓練実施
- 2月25日(土) 信濃川火焰街道連携協議会主催・新潟県立歴史博物館共催
「国際縄文フォーラム火焰街道2023 世界遺産と日本遺産をつなぐ
ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山」開催(於：新潟市民プラザホール)
- 2月28日(火) 新潟県立歴史博物館友の会主催展覧会
「原田泰治さん追悼展」「10年間ふるさとなみえ博物館」開幕(～3月21日)
- 3月19日(日) 新潟県主催・翡翠「県の石」指定記念特別企画 ヒスイ文化の魅力発信リレー講演会
「ヒスイの誕生と火焰土器のクニ」開催(於：講堂)
- 3月25日(土) 『新潟県立歴史博物館研究紀要』第24号発行

V 条例等

1 新潟県立歴史博物館条例

(平成12年3月31日)
新潟県条例第10号

(設置)

第1条 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立歴史博物館（以下「博物館」という。）を長岡市関原町1丁目字権現堂に設置する。

(事業)

第2条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する資料（以下「資料」という。）の収集、保管及び展示を行うこと。
- (2) 資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 資料に関する情報の提供を行うこと。
- (4) 資料の利用に関し必要な説明、助言等を行うこと。
- (5) 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する講演会、講習会、研究会等の開催その他の交流及び普及に関する活動を行うこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第3条 博物館の常設展示室に展示されている資料を観覧しようとする者は、別表第1に掲げる観覧料（以下「観覧料」という。）を納めなければならない。

(特別観覧料)

第4条 展覧会その他の特別の催しを観覧しようとする者は、知事が別に定める特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）を納めなければならない。

第5条 削除

(平19条例81)

(研修室等の使用の許可)

第6条 博物館の研修室又は講堂を使用しようとする者は、知事の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、研修室又は講堂の使用を許可しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認めるとき。
- (2) 博物館の施設又は設備を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、博物館の管理上支障があると認めるとき。

3 知事は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

(使用許可の取消し等)

第7条 知事は、前条第1項の許可を受けた者（以下「施設使用者」という。）が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その許可を取り消し、又はその使用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) 不正の手段により使用の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) 前条第3項の規定により使用の許可に付した条件に違反したとき。
- (4) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(施設使用料)

第8条 施設使用者は、別表第2に掲げる施設使用料（以下「施設使用料」という。）を納めなければならない。

2 施設使用料は、前納とする。ただし、知事は特別の理由があると認めるときは、後納させることができる。

(観覧料等の免除)

第9条 知事は、必要があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は施設使用料の全部又は一部を免除することができる。

(平19条例81・一部改正)

(観覧料等の不還付)

第10条 既に納めた観覧料、特別観覧料及び施設使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平19条例81・一部改正)

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(平17条例72・旧第12条繰上)

附 則

この条例は、平成12年8月1日から施行する。

附 則(平成17年条例第72号)

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年条例第81号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成26年条例第16号)

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用の許可を受ける者について適用し、同日前に使用の許可を受けている者については、なお従前の例による。

附 則(平成28年条例第24号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成31年条例第10号)

(施行期日)

1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用の許可を受ける者について適用し、同日前に使用の許可を受けている者については、なお従前の例による。

別表第1(第3条関係)

(平19条例81・平26条例16・平28条例24・平31条例10・一部改正)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体 (20人以上の団体に限る。)
高等学校の生徒 中等教育学校の後期課程の生徒 大学の学生 高等専門学校 その他これらに類する者	200 円	1 人につき 160 円
その他(学齢に達しない者並びに小学校、 中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び 中学部の児童及び生徒を除く。)	520 円	1 人につき 410 円

別表第2（第8条関係）

（平26条例16・平31条例10・一部改正）

区 分		使用時間	施設使用料
研修室	全面使用	午前9時から正午まで	3,970円
		午後1時から午後5時まで	5,340円
		午前9時から午後5時まで	9,320円
	片面使用	午前9時から正午まで	1,990円
		午後1時から午後5時まで	2,670円
		午前9時から午後5時まで	4,650円
講 堂		午前9時から正午まで	11,200円
		午後1時から午後5時まで	15,000円
		午前9時から午後5時まで	26,200円

2 新潟県立歴史博物館規則

(平成 12 年 7 月 18 日)
(新潟県規則第 129 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、新潟県立歴史博物館条例（平成 12 年新潟県条例第 10 号。以下「条例」という。）の施行に伴い、新潟県立歴史博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第 2 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分（研修室及び講堂については、午前 9 時）から午後 5 時までとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次に掲げる日とする。

(1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「祝日」という。）に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。))

(2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 3 日までの日

(開館時間又は休館日の変更)

第 4 条 前 2 条の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めるときは、開館時間若しくは休館日を変更し、又は臨時に休館することができる。

(平 18 規則 27・一部改正)

(観覧券等の交付)

第 5 条 博物館の長（以下「館長」という。）は、条例第 3 条の規定による観覧料若しくは条例第 4 条の規定による特別観覧料を納めた者又は条例第 9 条の規定により観覧料若しくは特別観覧料を免除された者に対し、観覧券を交付するものとする。

(平 18 規則 27・平 20 規則 16・一部改正)

(研修室等の使用手続)

第 6 条 条例第 6 条第 1 項の規定により、博物館の研修室又は講堂（以下「研修室等」という。）の使用又は使用の変更の許可を受けようとする者は、別記第 1 号様式による申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定による申請書の提出があつた場合において、研修室等の使用又は使用の変更が許可されたときは、申請者に通知するものとする。

3 前項の規定により使用又は使用の変更の許可の通知を受けた者（以下「施設使用者」という。）は、研修室等を使用するときは、同項の規定による通知書を係員に提示しなければならない。

4 施設使用者は、研修室等の使用の取消しをしようとするときは、別記第 2 号様式による届出書を館長に提出しなければならない。

(平 18 規則 27・一部改正)

(施設使用者の遵守事項)

第 7 条 施設使用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。ただし、第 3 号及び第 4 号に掲げる事項については、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(1) 使用目的以外の目的に使用しないこと。

(2) 使用する権利を他の者に譲渡し、若しくは担保に供し、又は使用する研修室等を他の者に使用させないこと。

(3) 現状を変更しないこと。

(4) 前 3 号に掲げるもののほか、館長が定める事項

(平 18 規則 27・一部改正)

(観覧料等の免除)

第 8 条 条例第 9 条の規定により、観覧料及び特別観覧料（以下この項において「観覧料等」という。）を免

除することができる場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部の児童及び生徒が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合 当該児童及び生徒の引率者の観覧料等の全額
 - (1) の 2 県内に所在する高等学校、中等教育学校の後期課程、高等専門学校及び特別支援学校の高等部の生徒が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合 当該生徒及びその引率者の観覧料等の全額
 - (2) 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条第 1 項に規定する児童福祉施設のうち、児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター及び児童自立支援施設に入所し、又は通っている者（以下「入所者等」という。）が当該施設の活動として観覧する場合 当該入所者等及びその引率者の観覧料等の全額
 - (3) 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条に規定する身体障害者手帳（以下「身体障害者手帳」という。）の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
 - (4) 療育手帳制度要綱（昭和 48 年 9 月 27 日付け厚生省発児第 156 号厚生事務次官通知）に規定する療育手帳（以下「療育手帳」という。）の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
 - (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条に規定する精神障害者保健福祉手帳（以下「精神障害者保健福祉手帳」という。）の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
 - (6) 車いす等の補装具を使用している障害者基本法（昭和 45 年法律第 84 号）第 2 条第 1 号に規定する障害者（以下「補装具を使用している障害者」という。）の介助者が観覧する場合 当該介助者（障害者 1 人につき 1 人に限る。次号から第 9 号までにおいて同じ。）の観覧料等の全額
 - (7) 身体障害者手帳に第 1 種身体障害者（身体障害者に対する旅客鉄道株式会社等の旅客運賃の割引について（昭和 57 年 1 月 6 日付け社更第 4 号厚生省社会局長・児童家庭局長通知）に規定する第 1 種身体障害者をいう。）として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
 - (8) 療育手帳に第 1 種知的障害者（知的障害者に対する旅客鉄道株式会社等の旅客運賃の割引について（平成 3 年 9 月 24 日付け児発第 811 号厚生省児童家庭局長通知）に規定する第 1 種知的障害者をいう。）として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
 - (9) 精神障害者保健福祉手帳に障害等級 1 級（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和 25 年政令第 155 号）第 6 条第 3 項に規定する障害等級 1 級をいう。）として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
 - (10) 第 3 号から第 5 号までに規定する者又は補装具を使用している障害者が団体（それらの者が 20 人以上であるものに限る。）として観覧する場合において当該団体に随行する医療担当者（医師、看護師等をいう。）が観覧するとき 当該医療担当者（2 人以内に限る。）の観覧料等の全額
- 2 条例第 9 条の規定により、施設使用料を免除することができる場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。
- (1) 博物館の設置の目的の達成に資するものとして県が後援し、又は賛助する事業（営利を目的としないものに限る。）を行うために使用する場合 施設使用料の全額
 - (2) 新潟県の歴史又は民俗に関する研究活動又は普及活動を行うことを目的とする団体が当該目的のために使用する場合（営利を目的としない場合に限る。）施設使用料の 2 分の 1 に相当する額
- 3 前 2 項に定めるもののほか、知事は、公益上必要があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は施設使用料の全部又は一部を免除することができる。
- （平 14 規則 146・平 19 規則 15・平 20 規則 16・平 23 規則 39・平 24 規則 19・平 28 規則 26・令 2 規則 24・一部改正）
- （観覧料等の免除手続）

第 9 条 前条第 1 項の規定による免除（同項第 1 号、第 1 号の 2、第 2 号又は第 10 号に係るものに限る。）を受けようとする者は、あらかじめ別記第 3 号様式による申請書を館長に提出しなければならない。

2 前条第1項の規定による免除（同項第3号から第9号までに係るものに限る。）を受けようとする者は、これらの規定のいずれかに該当することを示す身体障害者手帳その他の書類を館長に提示しなければならない。ただし、館長が当該書類を提示する必要がないと認めるときは、この限りでない。

（平14規則146・平18規則27・平20規則16・一部改正）

附 則

この規則は、平成12年8月1日から施行する。

附 則（平成14年規則第146号）

この規則は、平成14年10月1日から施行する。

附 則（平成18年規則第27号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年規則第15号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年規則第16号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第8条第1項第2号の改正は、公布の日から施行する。

附 則（平成23年規則第39号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年規則第19号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成28年規則第26号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和2年規則第24号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する

別記

第1号様式（第6条関係）

研修室等 使用 許可申請書 使用変更

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり研修室等 を使用をしたい ので申請します。
の使用の変更をしたい

なお、使用に際しては、新潟県立歴史博物館条例及びこれに基づく規則に従います。

記

区 分		使 用 の 内 容 (使用の変更の場合は、変更前の内容)	変 更 す る 内 容
使用する施設 及び使用日時	研 修 室	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 片面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 片面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで
	講 堂	年 月 日 時から 年 月 日 時まで	年 月 日 時から 年 月 日 時まで
使用の目的 (催事の名称)			
使用予定人員		人	人
参加料の有無		有 (円) 無	有 (円) 無
施設使用料の 免除申請		<input type="checkbox"/> する (理由:新潟県立歴史博物館規則第8条第2項第 号該当) <input type="checkbox"/> しない	
※施設使用料	円	※使用 条件	
※免除額	円		
※納付する額	円		

注 ※印欄は、記入する必要はありません

第2号様式（第6条関係）
 （平18規則27・旧第3号様式繰上）

研修室等使用取消届出書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒
 氏 名
 （法人又は団体にあつては、
 名称及び代表者の氏名）
 電 話
 担当者

下記のとおり研修室等の使用の取消しをしたいので届け出ます。

記

使用許可通知の年月日 及 び 番 号	年 月 日 第 号
使用許可を受けた 施設及び使用日時	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 半面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで
	年 月 日 時から 年 月 日 時まで
許可を受けた使用目的 （催 事 の 名 称）	
使用の取消しの理由	

第3号様式（第9条関係）

（平18規則27・旧第4号様式繰上、平20規則16・一部改正）

観覧料等免除申請書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり 観覧料
特別観覧料 の免除を受けたいので申請します。

記

申 請 の 理 由	新潟県立歴史博物館規則第8条第1項第 号該当
観 覧 年 月 日	年 月 日 時 分頃から 時 分頃まで
対 象 及 び 人 数	生 徒 人 医療担当者 人 入所者又は通所者 人 引率者 人 合 計 人
観覧の際の責任者の氏名	
その他参考となるべき事 項	

新潟県立歴史博物館年報 第23号

—令和4年度—

令和6年3月25日発行

編集 新潟県立歴史博物館
発行

〒940-2035

新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2

TEL 0258(47)6130

FAX 0258(47)6136

HP <http://nbz.or.jp/>

メールアドレス office@nbz.or.jp

**Annual Report
The Niigata Prefectural
Museum of History**

No. 23